2014
ISSN 0918-8711
No.35

GOLD & PLATINUM

GOLD & PLATINUM

CONTENTS

巻頭言 …… 3

豊島さんに会って、基本を聞こう。 …… 4

意識に上る「財政破たん」、そこで考える「金」 …… 10

供給不安に揺れるプラチナ族 …… 14
～政情不安の長期化は必至

写真で見る驚きのゴールド ① …… 18

黄金に彩られた古代ギリシャ …… 22
神も人も金を求める

宝ともあだともなる …… 25
お金の二面相 ── 名作文学にみる

マリリンを愛したジュエリー …… 26

中国の金市場：その歩みと展望 …… 28

2013年の世界の金の供給と需要 …… 32

プラチナ・ジュエリーの需要動向 …… 34
～現在から未来へ～

2013年の世界のプラチナの供給と需要 …… 36

日本金地金流通協会・沿革と活 動 …… 40

協会役員の紹介 …… 40

正会員 …… 41

特別会員 …… 42

登録店 …… 43

賛助会員 …… 47

表紙写真：馬蹄金（ばていきん）、別名を元宝（げんぽう）。中国は明や清の時代に秤量（しょうりょう）貨幣として用いられたとされる金塊。

編集・デザイン：株式会社 麹町ディレクション（澤田　直良、木下　裕之）／イラスト：haruka／撮影：児島　一伸、高山　透

巻頭言

一般社団法人
日本金地金流通協会
会長　山口　純

ニーチェがツァラトゥストラの中で“金”について語っている部分がありましたのでご紹介します。

（ツァラトゥストラが“まだら牛”という町を離れるときのこと）弟子たちが、ツァラトゥストラに杖を渡した。杖の金の握りには蛇が太陽に巻き付いていた。ツァラトゥストラは（中略）こう言った。「さて、どうして金が最高の価値をもつようになったと思う？ めったにないもので、実用的じゃなく、光っているが、その輝きがやわらかいからだ。金はいつも自分をプレゼントしている。最高の徳をイメージしたものであるという理由だけで、金は最高の価値となった。金のように輝くのは、プレゼントをする者の視線だ。（中略）プレゼントをする徳が最高の徳なのだ。」

哲学的な解釈はわかりませんが、高名な哲学者が金を徳の象徴に掲げてくれたことをうれしく思います。普通に読めば、金を擬人化しながら、人に与えることの大切さを説いています。利己的になりがちな人間への警鐘なのでしょう。概ね、世の中の事件や不祥事は利己的な行動から生まれています。そして日本では相変わらず金を利用しながら“プレゼント”とは逆の“奪う”ことを生業とする悪徳業者があとを絶ちません。これらに対応し、当協会は貴金属の健全な流通のため尽力いたしますので、今後ともみなさまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

引用　ツァラトゥストラ　ニーチェ　丘沢静也訳　光文社

豊島さんに会って、基本を聞こう。

ジュエリーに映る母の娘に対する愛情

村井　こんにちは。本日は豊島さんに金とプラチナのお話しを伺うのを楽しみに参りました。

豊島　かた苦しく考えないで、気楽に話そうよ。

村井　よろしくお願いします。

豊島　ところで、このごろお母さんと娘が一緒にショッピングするパターンが多いじゃない。

村井　そうですね、この頃よく見かけますね。

豊島　一緒に動いていると、どうやらお母さんも娘の影響を受けて、若向きのネックレスを着けたいと思うようになるみたいでさ。

村井　うちの母も、私の服を貸してほしいとか言いますね。なにか共有しあう感覚というか。

豊島　そう。それでジュエリーメーカーなども若い女性向けのファッション誌に、中年女性向けのネックレスや指輪の広告を出すようになった。

村井　それをお母さんが読むんですか？

豊島　リビングに置いてあったりする娘の雑誌を読んで、お母さんは最近のファッション情報などを吸収しているわけ。

村井　へえ、そうなんですねえ。

豊島　都心百貨店の売り場でも、お母さんと娘をターゲットに同じテイストのネックレスをさりげなくディスプレイしたりしてね。そうなるとお母さんも気になるわけじゃない。

村井　ふふふ。娘が買うと、つられてお母さんも。

豊島　そうなんだよ。お母さん世代には、自分のためにお金を使うことに罪悪感があるんだけど、娘に刺激されると気持ちが動く。

村井　お母さんも買っちゃうかなあって。そこがお店の狙いでもあるわけですね。

豊島　ここで今日の主題の金とプラチナに話を移すと、これまで金はオバさんのもの、プラチナは若い女性のものという傾向が強かったんだよ。

村井　そうだったんですね。

豊島　ところが最近、若い女性たち間でも金の人気が高まって来ていてね。

村井　私もどちらかというと金ですね。

豊島　それはやっぱり景気が少しずつ良くなって来ているってことだね、経済的な背景としてはね。ついでに補足すると、つい最近までプラチナが重宝され、金もホワイトゴールドの系統に人気があったんだよ。でもここにきてトレンドがエレガンスに移って、まさに金の輝きというか、本来のイエローのゴールドに人気が出てきた。

村井　はい、たしかにそれは感じますね。

豊島　とはいえ日本人が好むのは、いかにも金、みたいな自己主張するような金色じゃなくてね。

村井　私も繊細なゴールドがいいですね。チェーンもなるべく細め、ピアスもポチッとしているのが好きです。

豊島　ちょうどいま、あなたが身に着けているネックレスのような、ね。よく似合ってる。

村井　有り難うございます。

豊島　ところで、そんな日本の女性と対照的なのがアラブの女性たち。あの黒い民族衣装の下、じつはゴールドジュエリーでギラギラなんだよ。

村井 美樹（むらい みき）さん

第19回ミス早稲田。映画・ドラマに多数出演するほか、漢字検定一級保持者としてクイズ番組などでも活躍。鉄道好き、山好きとして知られる。近著に「極めよ、ソフテツ道！」（小学館）。

対談

豊島 逸夫（としま いつお）さん

Toshima & Associates代表。三菱銀行、スイス銀行外国為替貴金属部ディーラー、ワールドゴールドカウンシル日本代表を経て現職。日経電子版「金のつぶやき」などでの情報発信も旺盛。

村井　そう、スゴイですよね。じつは私もこのあいだ取材でヨルダンに行って来たんです。ゴールドジュエリーもゴージャスでしたけど、下着なんかも派手でしたね。お部屋も真っ赤な内装だったり、ファンシーだったり。ムスリムの女性のイメージが180度変わりました。

豊島　女性ならではの視点だね。ジュエリーって基本的には他人に見てもらうものだと思うけど、アラブの人はそこがまるで違うね。

村井　財産的な意味合いが強いのでしょうか？

豊島　金に対する思い入れが深いのだろうね。

村井　それは民族的に、ですか？

豊島　長い歴史のなかでDNAとして染み付いているんじゃないかな。だから金の世界では、金価格をウォッチする際にドバイのゴールド・スーク（商店街）の売れ行きを参考にしているわけ。

村井　へえ、そうなんですか。

豊島　スークのムードが、賑わっているか、それとも閑散としているか。

村井　ちなみに今はどうなんですか？

豊島　価格が安くなると賑わう。価格が上がると、下がるのを待とうということで閑散となる。

村井　お客さんはどういう方々なんですか？

豊島　それはもう圧倒的に女性。しかも商圏は中央アジアから北アフリカに至るまで、すごく広い。

村井　ドバイに金が集まるんですねえ。

豊島　中東のハブ（流通拠点）だからね。他にも理由が二つあって、一つは古代エジプトの時代か

ら金に対する思い入れが強いということ。「金の輝き」イコール「太陽の輝き」で、それは「永遠」とか「パワーの源泉」につながる。王様が金の冠とか首飾りをするようになった背景だよね。

村井　権威の象徴ということですね。

豊島　そんなところから、たとえば娘が結婚で嫁ぐ時に、花嫁を守ってくれるものという意味で、親が娘にゴールドジュエリーをプレゼントする歴史も生まれるわけ。この点では、日本でもドバイでも、嫁ぐ娘を持つ親の心って変わらないよね。嫁いだ後のことを、いろいろ心配するわけだ。

村井　親の愛が詰まっているんですね。

豊島　もう一つの理由は、金利だ。われわれ、普通、お金を銀行に預けると、利息が付くじゃない。

村井　いまは少ないけど、でも付きますよね。

豊島　しかし、イスラムでは、金利はイカン、不労所得はケシカランとなっているわけ。

村井　えッ！じゃあ金利は付かないんですか？

豊島　付かない。ここ、大事なポイントだよね。われわれの価値基準からすると、金は金利を生まないところが欠点とされるわけだけど、中東に限っては、金利を生まないところが長所となる。

村井　へえ、そうなんですか。初めて知りました。

豊島　地域とか文化とか歴史によって、金に対する考え方が違う格好の例といえるね。

年間産出量の3分の2は中国とインドが買う

村井　話は変わりますけど、今いちばん金を買っている国はどこなのでしょうか？

豊島　それはもう、中国とインド。

村井　やはり新興国なんですね。

豊島　しかも、この２カ国は断トツ。少し専門的な数字になるけど、年間生産される金は約3000トンあるけど、そのうちの３分の２、つまり2000トンは中国とインドが買っている。

村井　それで金の価値が上がってるわけですか！

豊島　上がってるというより、下がらない。

村井　下がらない？たしか、2、3年前、すごく上がっていましたよね。いまは下がって、1グラム4000円台くらいですか。

豊島　そう。でも、そこから下がらないでしょ。理由の一つは、中国とインドがいつ買うかにあるわけ。金価格、史上最高値更新か！なんて世界が騒いでいるときなど、彼らは見向きもしない。

村井　売りもしないんですか？

豊島　売る人はいるけど、まず買わない。でも、逆にニューヨークで金価格が大きく下がったなんて話になると、急に色めき立って買うわけ。ドバイのゴールド・スークも、ドッと賑わう。

村井　あははは、分かりやすいですね。

豊島　その水準が、海外で1200ドル、日本円でいうと4000円くらいのところ。

村井　でも十数年前は1000円ほどでしたよね。

豊島　そこまで下げた最大の理由は、当時、インドと中国の需要を合わせても、500トンとか600トンしかなかったからだね。

村井　経済的に発展していなかったから？

豊島　まさにその通りで、その頃に中国やインドへ行っても、ほんとに貧しい国だった。

村井　今はもう、ぜんぜん違いますものね。

豊島　それだけ中国やインドを中心にして、新興国の生活水準が上がって来たってことだよね。働く女性が増えれば消費だって活発になるしね。

生産コストの水準が下値の一つのメド

豊島　金価格が下げにくい、もうひとつの理由は、生産コスト。金というのはね、世界各地で掘られているとはいえ、たとえば南アフリカともなると、かなり掘り尽くして、すでに地下 3000 メートルくらいまで掘らないと出てこない状態なわけ。

村井　それだけお金がかかってるわけですね。

豊島　金鉱石 1 トンから 3 グラムくらいしか採れないし、深く掘れば掘るほど生産コストは高くなって、いまでは 1 オンス（約 31 グラム）の金を掘り出すのに 1200 ドルもかかってる。

村井　より深いところを掘っているからですね。

豊島　実際に現場に行くと分かるけど、2000 メートルとか 3000 メートルの地下って、気温が摂氏 40 度、湿度が 90% くらい。もう大変。

村井　どういう風に降りて行くんですか？

豊島　1000 メートルくらいあるエレベータを乗り継いで行くから、採掘の現場に着くまで 3、40 分かかる。過酷な環境だから、まず必要なのが冷房、それから換気。考えてみて、地下 3000 メートルの空間を冷房、換気してるんだから。

村井　ほんと、たいへんそうですね。

豊島　ポイントは、採算を大きく割るような状況になったら、鉱山会社はどうするか、だよね。

村井　掘らなくなりますか？

豊島　そう、止めちゃうよね。少なくとも生産を減らす。山を閉じるってこともありうる。いま、そういうことが少しずつ起き始めているわけ。

村井　金が尽きてしまったら、どうするのだろうという不安はありますね。

豊島　いや、埋蔵量はいくらでもある。ただ、その多くが海底にあるわけ。

村井　海の底にあるんですか！。

豊島　たくさんある。でも、原油みたいに掘れば噴出してくれるワケじゃないからね。海底のそのまた下へ掘り進むワケだから、いまの何倍もコストがかかることになるのは間違いない。

村井　生産コストって大切なポイントですね。

豊島　金価格の下値を読む際の指標の一つだね。

中国バブルが崩壊したら金需要は激減するか

村井　ところで前から気になっていることがあるのですが。

豊島　なに？この際だから、なんでも聞いて。

村井　もしもの話なんですが、仮に中国のバブルが弾けた場合は、どうなるんでしょう。

豊島　おッ、いきなり核心に来たね。要は、中国人がなぜ金を買うのか、だよ。彼らはね、3000 年、4000 年の歴史のなかで、たびたび異民族の支配を受けたり、経済の破綻を経験したりしているわけ。通貨の呼称なんて、何度も変わってるしね。だから、たまたまいまは人民元を使ってるけど、国や経済が破綻する時に備えて、最後に残る

価値を求めるところが、どこか彼らにはあるわけ。これは教科書で習うことではなくて、長い歴史のなかで刷り込まれたものだよね。

村井　じゃあ、バブルが弾けたあとも、金はさらに売れる可能性があるわけですか？

豊島　もちろん、あると思う。中国が長く平和な国だったら、政府が発行した紙切れで十分なわけで、これほど金は求められてないはずだよ。

村井　そうですね、信用の問題ですものね。

豊島　以前、北京の大きなジュエリーショップでリサーチしたことがあるんだけどね。なんと20代くらいの女性が次から次へと来店して、金の地金を買っていくわけよ。なぜ？と思って、4、5人の女性にインタビューしたら、みんな同じ答え。「銀行より金の方が安心」って言うんだ。

村井　へええ、すごいですね。

豊島　この発想、日本ではちょっとありえないね。

村井　でも、ちょうど私たち30代くらいの世代の女性が、けっこう金に興味を持ってるんですよ。もしかしたら日本の国債だってどうなるか分からないし、貯金だけじゃちょっと心配だなって思ってる人が増えているんだと思います。

豊島　少し前、参加者は20代後半から30代前半の女性だけという、男子禁制のゴールドセミナーがあってね。彼女たちの意識というのが、あなたの話に通じていて、自分は働いているんだけど、会社も国も最後は頼りにならない、と。

村井　そうなんです。バブル世代の人たちと違って、私たちは物心ついた頃から不景気で、節約志向が染み付いているし、バブルなんて、あれは弾けるものでしょっていう気持ちがあります。景気が良くなってると言われても、ホントかなあ？って、どこか冷めて見ている感じがあるんですよ。

豊島　とても強い危機意識を持っているよね。

村井　年金もいまの50代、60代の人とかは、仮に少なくなるにしても貰えますよね。でも、私たちの場合は、どうなるか全く見えないですから。だから、自分でできることは自分でやる、みたいな感覚があるんでしょうね。

これからの日本人には金を保有する意味がある

豊島　最後にもう少し日本のことを話そうか。アベノミクスが実行されるようになって、日本でも物価が上がって来ているよね。

村井　消費税増税もありますしね。

豊島　増税を抜きにしても、電気代とかガソリン代とか、エネルギーコストが上がっている。もうひとつが輸入品。為替が1ドル76円から100円台まで下がって、それだけですでに輸入品の物価が25%も上がって来ているわけだ。

村井　健康保険料も上がってますし。

豊島　負担は徐々に重くなっているのに、賃金がそれに見合ってはなかなか増えてこない。一部の恵まれた大企業では大盤振る舞いでボーナスが出ているけど、日本全体ではそうはなっていない。結果的に、日本も中国と同じで、銀行預金にしておくと、物価が上昇する分だけ価値が目減りしていくという現象が起きているわけだ。

村井　金利も上がりそうにない感じですしね。

豊島　金利はいづれ上がり始めると思うけど、まだ時間はかかりそうだね。

村井　物価の方だけ上がっていっちゃう。

豊島　だから金に限らず言えるのは、ゼロ金利の銀行預金だけじゃ、これはもうアカンなと。

村井　あぶないぞ、と。

豊島　そういう意味でお金が動き始めたところがあるよね。その流れでまず株が買われた。一時、株がポーンと上がったんだけど、でもまた下がっちゃって、いま上がったり下がったりしていると。

村井　そうですね。

豊島　そうすると、株が下がるようなときに、なにか上がるようなものは何なんだろうと。

村井　そこで金が出てきているわけですね。

豊島　そう。全体の 10% くらいは備えとして持つ、という考えが出て来るわけだよね。

村井　もともと持っている資産の 10% を金にすればいいですか？

豊島　うん、それくらいを持つ。それと、20 年後、30 年後の年金まで考えて買うというくらいの姿勢が望ましいよね。その頃に消費税が 20% を超えている可能性だって大いにありうるからね。

村井　そっかあ、大変ですねえ、やっぱり。

豊島　日本の 1000 兆円の借金、これはいつか誰かが払わなくちゃならない。

村井　はい・・・

豊島　結局は、税金の形で国民から取り上げるか、1 万円札を刷りまくってバラまくかになる。

村井　それ、いまやっていますよね。

豊島　いまなぜ量的緩和をやっているかというと、デフレから脱却するにはカネ回りを良くすればいい、と考えているから。実際アメリカはそれでリーマン・ショックから回復して、いま少なくとも先進国のなかでは一番景気が回復している。

村井　はい。

豊島　そういう実例があって、黒田さんという日銀の総裁も同じことを始めている。これが国にとって都合が良いのは、1 万円札の価値が、刷れば刷るだけ薄まるわけだよね、当然。つまり、借金した側にとっては、同じ 1 万円でも、もちろん額は減らないけれども、負担感はどんどん軽くなるわけよ。政府はあまり語りたがらないけど、そういう狙いもあるわけだね。

村井　ふ～ん。でも、円の信用って、それで大丈夫なんですか？　心配ですよね。

豊島　当然、円の信用も揺らぐよね。だから私は言ってるわけ、金を持ちなさい、ドルも持ちなさいって。だってさ、このところの円安で、すでに 1 万円で海外で買えるものが 25% 減ってるんだからね。そろそろ真剣に考えないとね。

村井　ほんとにそうですねえ。あら、済みません、時間が来てしまいました。最後にまとめさせて頂くと、金やドルと付き合うなら、インフレ、円安、それと将来の年金のことまで考えて、ということですね。今日はどうも有り難うございました。

撮影協力：セレスティンホテル
ジュエリー提供：井嶋金銀工業株式会社

意識に上る「財政破たん」、そこで考える「金」

黒字大国「日本」は今や昔。貿易赤字が定着した感のある中で 2014 年上半期（1 ～ 6 月期）の経常収支が 5075 億円の赤字となった（*）。比較が可能なデータでは、上半期としては 1985 年（昭和 60 年）以降で初めての赤字となる。「経常収支」とは海外とのモノやサービスの取引状況を金額ベースで示すもの。わかりやすく表現するならば、政府と民間合わせた（海外を相手にした）日本国としての収入と支出の差額で、いわば「稼ぎ」を示す。昨年の下半期（7 ～ 12 月期）に続き半期ベースで 2 期連続の経常赤字で、金額もその時の 788 億円を大きく上回り過去最大となった。ちなみに昨年上半期は 3 兆 3131 億円の黒字となっていた。

利息、配当収入でも賄えない赤字

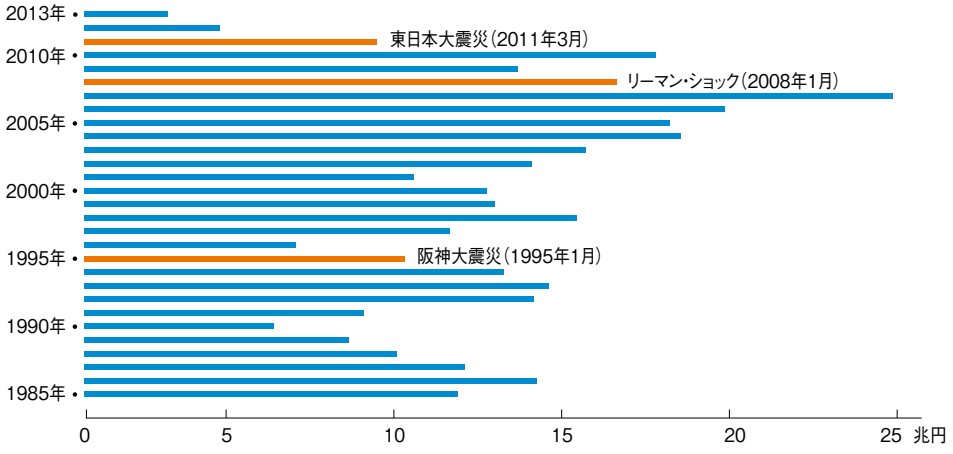
経常収支の赤字転落は、最大項目の貿易収支の赤字が過去最大規模に膨らんだことによる。東日本大震災以降、火力発電所の燃料費が増大したことや、円安にも関わらず輸出が想定したようには伸びていないこと、さらに国内景気が一時に比べ上向いたことが輸入の増加につながり、円安も手伝って輸入金額が膨らんだことが貿易赤字を膨らませた。

2011 年に貿易が赤字に転落してこれまで、その赤字を補って余りある所得収支の黒字が経常収支の赤字転落を防いできた。

これまでの日本は黒字大国と言われ対外純資産保有世界一の座を続けており、昨年でついに 23 年連続となった。財務省のデータでは 2013 年末時点では 325 兆円となり、2 位中国の 207 兆円に大きく水をあけている。この資産から受け取る利息収入や配当収入などが所得収支の黒字となって、貿易赤字を補ってきた。

経常収支グラフ

基礎データ：財務省



(*) 8月8日財務省発表の速報値

マーケット・ストラテジィ・インスティテュート代表
金融・貴金属アナリスト
亀井 幸一郎（かめい こういちろう）

しかし、今年の上半期は補えないほど貿易赤字が膨らんだ。経常収支の赤字転落は、表面的には日本国の「稼ぐ力」が衰えたということを意味する。ただし、現時点では、赤字の状態が一般化すると考える必要はないだろう。まだ、一過性の要素が今回の赤字転落をもたらしている部分があるからだ。ただし、スマート・フォンの売れ筋が国内製品よりも海外製品に移行したりというように、家電を中心に企業の国際競争力が低下したのも事実ではある。

経常赤字大国、米国は参考にできない

経常収支の赤字転落で将来なにがもたらされるだろうか。

言えるのは、それ自体によって国民生活を悪化させることはないこと。他国の例を引いても、経常収支の黒字または赤字と実質経済成長率にはほとんど相関性が見られないとされる。確かに経常収支が赤字になったからといってすぐに円が売られたり、国債が売られたりということはない。だから赤字は気にする必要がないとの主張がある。

例として挙げられるのが、恒常的な赤字状態の米国の姿だ。経常赤字を抱える米国を、国際競争力が弱いという人がいないではないか、というわけだ。経常収支が赤字の米国は、外（海外）から資金を還流させて（賄って）国が回っている。投資対象としての魅力と安全性を兼ね備えていれば、カネは回って来るし、国家運営に問題はない。まさに米国はその典型例といえる。

だからといって日本も経常赤字になっても問題はないという意見には反対だ。まず米国は基軸通貨であるドルの発行国である。世界各国が貿易や金融取引にドルを使うことから、その預け入れや運用の必要性からも米国を中心にカネが循環する仕組みができている。とても日本を同一視はできない。さらに日本が抱える特殊事情がある。それが積み上がった財政赤字問題だ。

1000 兆円を突破し なお増え続ける国の借金

財務省が発表したところによると、この 6 月末の国の借金は 1039 兆 4132 億円となっている。この 1 年間で約 40 兆円増えた。国民 1 人当たりに換算すると 818 万円となる。突出した世界最悪の財政事情を抱える国である。膨れ上がった財政赤字が問題視されて久しい。それでも何の支障もなく、日常が回っていることで関心も薄れているのが現状となっている。現在の政府もなお財政刺激策を取ることに前向きな姿勢を見せているのはご存じのとおり。今年の 8 月末にまとまった 2015 年度予算に向けた各省庁の概算要求では、総額は 101 兆円台に達し、過去最大となった。収入（税収）は、その半分ほどしかないにもかかわらず、である。ここから優先順位の低いものは削られるが、いずれにしても不足分は借金（国債発行）の上積みで賄われる。

これまで政府の赤字が異常なレベルに膨らんで

も、日本は他国と異なり「稼ぐ力」の大きい国（経常収支が黒字の国）というのが政府のファイナンス（国債発行）に伴う信頼性のアンカー（錨）となってきた。しかるに経常収支の赤字化は、それが続けば国内資金の不足につながり、国債発行も海外資金頼みになる可能性がある。

現在、発行済み国債の海外投資家の保有割合は、全体の８％ほどである。財政危機に陥ったギリシャは７割にも上る。つまり日本国は、膨大な赤字を抱えるがそれは身内（国内）からのもの。外に頼ってはいない。たとえ経常赤字でも、日本はまだ海外の投資家に国債を買ってもらう余裕があるので、その間に財政再建を軌道に乗せ、安心して買ってもらえる状態にすればよいという意見もある。これも、今のように赤字の規模が膨らむ前ならばそのとおりだろう。むしろ過大な財政赤字を抱えているからこそ、黒字が好ましいと思われる。世界に冠たる債権大国で「潤沢な稼ぎ（経常黒字）がある」からこそ、膨大な財政赤字には目をつむってもらえたわけだ。この構造に変化が現れるならば、いよいよ財政危機の可能性も高まることになるのではないか。

ＩＭＦも日本の救済はできない

日本の財政危機と簡単に言うのだが、それは国際金融に大波乱を起こすことになる。日本国の財政破たんを扱った書籍は 10 年以上前から増え始め、いまも増えている。財政破たんから金融危機に至り、それが通貨危機に波及するというのがメインシナリオで、超円安（円の暴落）やインフレが付随するというもの。理屈の上では、否定の出来ないシナリオであり多くは、ドル預金など海外資産を増やすことを説いている。思うに、「机上の空論」とまでは言わないものの、想定される現実のカネの流れを考慮していないものも多いということ。

例えば、足元で国債発行は（過去の借金の）借り換えだけで年間 120 兆円を超える規模となっている。対して国際通貨基金（ＩＭＦ）が財政危機に陥った国に使える基金は総額 100 兆円とされる。意味するのは、一時的な緊急融資はともかく、ＩＭＦも日本を支えることはできないということ。先に日本は対外純資産の保有が世界一としたが、その日本がカネに窮すれば、外に置いてある資金の回収に掛らざるをえないだろう。海外（主に米国）の国債や株式などの売却に向かうことになる。例えば日本による米国債の売却は、ヘッジファンドなどにも動揺をもたらし価格急落、金利の急騰を招く可能性もある。キャッシュにした資産を回収するため、為替市場ではドル売り円買いの流れが発生することになる。ヘッジファンドなどの投機筋の動きが、こうした流れを加速させることも考えられよう。それだけでＮＹ市場のみならず国際金融の現場は大混乱に陥るのではないか。

つまり、日本国破たんに備えた対応策として海外資産を勧める論調の多くは、日本が悪化する中で米国他が安泰とまでは言わないが、比較的安定していることを前提にしているのだが、「火の粉」は世界中に掛るのである。早い話が日本国が破たんに瀕する際には、国際金融にも激震が走るときでもあろう。もっとわかりやすい例を挙げるなら、経済規模（ＧＤＰ）でみてギリシャは埼玉県より少し小さい（それだけ日本国の経済規模は大きい）。そのギリシャの危機は、ユーロ崩壊につながるとされたのは記憶に新しい。まして日本国においておや、ということである。仮に日本国の財政破たんとなると、国際協調体制を取ったうえで対応策を協議する以外になさそうだ。

円は、唯一「金に負けていない」通貨だが……

そうした中で、注目を集めるものこそ、無国籍、無債務性で独立した存在で世界中で共通の価値を認められている「金」ということになる。資産保全というと大袈裟に聞こえるだろうが、個人レベルでの備えとして一定の外貨建て資産を持つことを否定するつもりはない。しかし、ここまで書い

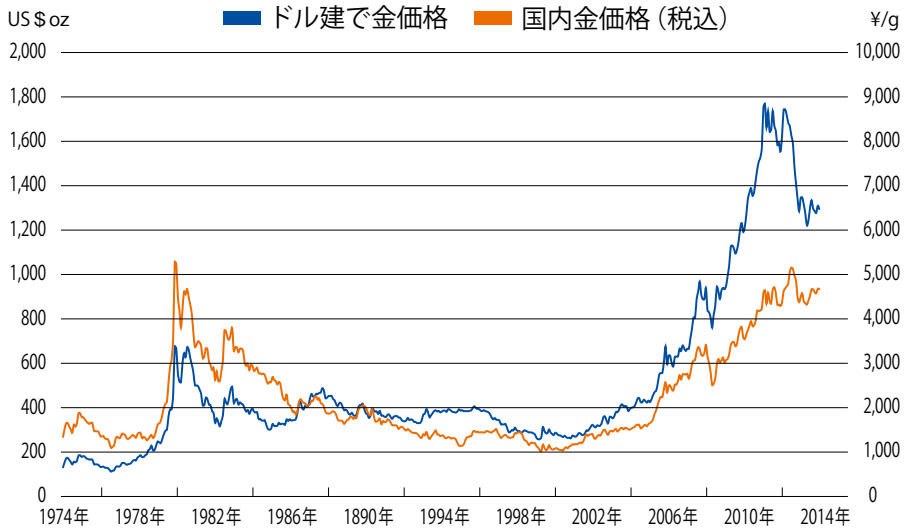
たような現状を考えるならば、資産の中立性、独立性という点で唯一無二の存在といえる「金」の有効性は言うまでもないだろう。

考えてみれば主要国、否、世界中で金が過去最高値を更新していない国は日本のみである。1980年（昭和55年）1月21日に記録した1グラム、6495円（当時は消費税導入前）が最高値で、これは海外市場での「バブル」とされる急騰相場の最終段階で記録されたものだった。当時のロンドン市場の高値は850ドル。ドル円相場は240円前後の値動きとなっていた。当時記録されたドル建て最高価格が更新されたのは2008年1月のこと。その後2011年のニューヨーク市場での1900ドル突破につながったことは記憶に新しい。主要国通貨建ての金価格も、2011年さらに2012年に軒並み過去最高値の更新をするなかで、円建て国内価格は対ドルで70円台の円高の中で上昇は抑えられた。2012年秋以降の円の急落の中で2013年2月に記録した5300円前後（税抜き）の価格が約33年ぶりの高値となったが、1980年の高値には遠く及ばなかった。金が高値を更新していないということは、視点を変えるなら、その国の通貨が金に対し価値を維持している、あるいは価値を上げているということを表す。金の高値更新とは、同じ金額で買うことのできる金の量が減っていることを意味する。それが日本では1980年の最高値当時1キロの購入に約650万円要したものが、2014年8月末時点で約440万円（税抜き）で済む。ドル建て金価格は上昇しているものの、それ以上に対ドルでの円の価値が上がっている（円高）ことによる。金の高値未更新の意味することは、唯一日本円のみが金に負けていない強い通貨という捉え方ができるもの。問題は、この強い状態をこの先も長く維持できるのか否かということ。その方向性を考えるひとつの材料が、前半で取り上げた経常収支の赤字転落ということだと思う。これから2020年の東京オリンピックに向け首都圏を中心に交通インフラの整備などで投資活動が盛り上がり活況感の高まりもあることだろう。しかし、地方との格差問題や財政負担も高まることになる。日本の財政に対する関心が一気に高まるのは、その後のことになるのかも知れない。

グラフにあるように月間平均価格で見た場合、過去の高値水準は5200～5300円（税抜き）になるのだが、2013年年始は一度この水準に到達した後に下落したところにある。ドル建て価格の状況に左右されるが、国内価格もまずは平均価格ベースで、最終的には他国並みに円ベースでも最高値更新ということは、もちろん荒唐無稽な話ではない。それほど日本国の財政収支や国際収支の問題は悪化している。

金価格のヒストリカルチャート

1974年以降（月間平均値）



供給不安に揺れる プラチナ族～政情不安の長期化は必至

同じように地政学リスク（政情不安）が押し上げる構図も、金とプラチナ（白金）族では質が違う。金の場合は主に「投資家の不安心理」が相場を押し上げ、プラチナ族は「現実の供給減少」が強く影響している。それは通貨の顔を持つ金と産業原料の色彩が濃いプラチナ族の特徴の違いでもある。プラチナ族では今年、自動車の排ガスを浄化する触媒に欠かせないパラジウムの相場がドル建ての国際市場で３年半ぶり、円高修正と重なった国内先物市場では 2001 年以来の高値を記録した。貴金属市場で今年の主役はパラジウムを中心としたプラチナ族であり、値動きの激しさは来年も続く可能性が高い。背景にある供給減少の要因が構造的だからだ。

ロシア、南アに供給頼る

貴金属の中にはプラチナ族金属（ＰＧＭ＝プラチナ・グループ・メタルズ）と呼ばれる一群がある。具体的にはプラチナのほか、パラジウム、ロジウム、ルテニウム、オスミウム、イリジウムの６種の金属を指す。この中でプラチナとパラジウムは自動車産業などに重要な金属原料で、石油化学産業などの触媒としても利用される。わたしたちの身近なところでは宝飾品のほか、虫歯を削った跡に詰める金属などにも必要だ。今年４月には主要金属の値上がりを受け、歯科医療用金属の価格が引き上げられた。

プラチナもパラジウムも鉱山生産量は年間 200 トン程度で、金の 10 分の１以下にすぎない。政府（経済産業省）は、もともと地球上に資源量が少ないか、資源はあっても技術的・経済的（コストが高く、採算に合わない）な理由で抽出が難しい金属のうち、工業用途に重要な 31 種類を「レアメタル」に指定している。中国の輸出規制で価格が高騰したレアアース（レアアースは 17 種類の金属をまとめ１種類として数える）はもちろん、

金とプラチナの特徴

	金	プラチナ	備 考
2013年のNY先物売買高（オプション含まず）	6兆6,399億ドル	2,405億ドル	プラチナは流動性が低く、値動きが激しい。
2013年の鉱山生産量	3,022トン	184.8トン	――
最大生産国（生産量・世界シェア）	中国（438トン・14.5%）	南アフリカ（133トン・72%）	プラチナは南ア情勢の影響を受けやすい。
需要の特徴	投資・資産目的が多い（工業用途は8%）中央銀行の準備資産	工業用途が6割強を占める（4割強が自動車触媒向け）「通貨の顔」は希薄	金は金融市場の影響を受けやすく、プラチナは自動車を中心とした世界景気の影響を受けやすい。

（注）ワールド・ゴールド・カウンシル（WGC）、トムソン・ロイター社、シカゴマーカンタイル取引所（CME）グループなどの統計から作成

日本経済新聞社
商品部編集委員
志田 富雄（しだ とみお）

プラチナとパラジウムもレアメタルの対象だ。

プラチナ、パラジウムとも世界生産の７～８割を「ロシアと南アの２カ国」で握る構造は共通している。ただ、プラチナの生産は南アが世界の７割近くを占めるのに対し、パラジウムはロシアと南アが４割ずつ。直近ではロシアの方が少し、南アを上回る。南アではプラチナ族が同時に産出されるが、ロシアではニッケル（ノリリスク・ニッケル社の鉱山が中心）の副産物としてパラジウムが多く生産される。プラチナは供給要因として南アの影響を受けやすく、パラジウムはロシアと南ア、双方に揺さぶられる金属資源といえる。

日本経済新聞は４月 17 日朝刊の商品面で「パラジウム・プラチナに供給不安～代替品確保の動き」と対応に追われる関連産業の動きを伝えた。この記事にもあるように、今年に入ってロシアや南アの供給はすでに大幅に減少。４月の日本のプラチナ輸入量は 2.6 トンと前年同月を 36％も下回った。さらに市場関係者は欧米の経済制裁に対しロシアが強硬な対抗策を打ち出した場合や、ロシアが経済混乱に陥ったときにパラジウムの供給が一段と減ることを懸念している。

４月に報じたこの懸念は、ウクライナの親ロシア派とみられる勢力が７月にマレーシア航空機を撃墜したことで一層、深刻さを増した。欧米は７月末にロシアの銀行などの資産凍結を決定。これに対抗してロシアは欧米産農産物の輸入禁止措置を打ち出した。オバマ米大統領は８月６日の会見で「（経済制裁によりロシアから）1000 億～2000 億ドル（10 兆～ 20 兆円）の資本が逃避（流出）した」と指摘した。実際、ロシアの通貨ルーブルや株式相場は下落傾向が顕著だ。主要国首脳会議もロシア抜きのＧ７で開かれており、ロシア対欧米の対立は解消しそうにない。

供給減少の背景に構造要因

一方、南アの生産減少は鉱山ストライキが要因で、その背景には所得格差の拡大という構造問題が潜む。南アでは 2012 年にもロンミン社（プラチナ生産量で世界３位）の主力鉱山であるマリカナ鉱山で賃上げを求める大規模なストライキが発生。デモ隊と警官隊が衝突し、多数の死傷者が出ている。南アは今世紀に入り、中国やインド、ロシア、ブラジルのＢＲＩＣｓ諸国と並び称されるほど、めざましい経済発展を遂げた。ただ、企業経営に加わる黒人が先進国並みの所得を得るようになった一方で、鉱山労働者などの賃金は低いままだ。失業問題も深刻で、若者の失業率は５割を超すとされる。

同じ黒人の間で広がる貧富の格差――国民の間に充満するアパルトヘイト（人種隔離政策）時代と違った不満が、大規模なストライキや治安の悪化を招いている。それだけに同国で頻発するストは一過性ではなく、構造的な問題といえる。ストや政情不安を生む構図は南アにとどまらず、多くの新興国に見られる問題だ。

南アでは５月下旬に首都プレトリアで大統領就任式があり、第２次ズマ政権が発足した。ズマ大

統領は就任演説で「急進的社会・経済政策を今後５年進め、経済成長の回復につなげる」と主張した。具体的には、経済活動に政府が関与していくステートキャピタリズム（国家資本主義）の強化である。企業の株主構成や経営幹部、技術開発への黒人参加が公共部門による調達の条件となる。基幹産業である鉱業では、新規の鉱山開発について資本の最低 26％を黒人の株主とすることが求められる。戦略的鉱物資源と認定された鉱物については、鉱物資源相が定める価格で、特定の量を国内に供給することも求められる。プラチナ族がここに入ることはいうまでもない。

インドネシア政府がニッケル鉱石などで進めるのと同じような国内優先供給策を南ア政府が具体化していけば、国際市場への供給に影響は避けられない。新興国経済が減速しても自動車の普及は長期に渡って進み、触媒需要も拡大を続ける。その中で南アの資源政策は格差とスト多発とは別の供給減少要因となりうる。

自動車産業を中心とした日本企業にとって、プラチナやパラジウムの安定確保は重要な課題だ。産出国が限られるだけに、南アやロシアの生産者とつながりを維持する必要がある。同時に、想定外の供給減少リスクに備え、触媒などでプラチナやパラジウムをなるだけ使わなくてすむ技術開発やリサイクル網の整備は欠かせない。企業にとっては価格変動が経営を直撃しないようにリスクヘッジにも対応したい。その意味で、昨年からの金融大手の事業縮小で企業の価格ヘッジが難しくなっていることは気がかりな材料だ。

景気指標としても注目

プラチナやパラジウムは米国では世界最大のデリバティブ（金融派生商品）市場であるシカゴ・マーカンタイル取引所（ＣＭＥ）グループ、国内では東京商品取引所（ＴＯＣＯＭ）が上場する投資商品でもある。プラチナでは投資用の地金や硬貨も現物投資の対象として浸透している。ここ数年は上場投資信託（ＥＴＦ）を利用して投資する手法も身近になった。しかし、同じ貴金属でもプラチナ族は金とはまったく異なる「顔」を持つ。投資にあたってはそれぞれの特徴をつかみ、値動きに注意すれば世界景気の行方を占う指標にもなる。

2011 年以降、国際商品市場では珍事が続いていた。本来は金より高いはずのプラチナが、長期にわたり金を下回った。価格の逆転現象だ。市場で「プラチナは金より高いのが常識」と考える最大の理由は希少性にある。金の年間鉱山生産量はおよそ 3000 トン。それに対し白金は約 200 トンで、16 分の 1 の規模にとどまる。生産コストもプラチナと同時に採掘されるパラジウム、ロジウムといった白金族全体を考えて 1 トロイオンス 1400 ドル前後とみられる。金の生産コストも上昇傾向にあるが、それでも 1200 ドル程度とプラチナより安い。しかも金の生産国が世界各地に分散しているのに比べ、プラチナ族の供給は南アとロシアに集中する。そこに供給減少が起きれば価格が高騰しやすいのは先に触れた通りだ。

ところが、世界経済に不安が強まる場面では両者の価格が逆転することがある。今回、最初の逆転はリーマン・ショック直後の 2008 年 12 月。その前は日本が金融危機のまっただ中にあった 1997 年 1 月である。世界経済に不安が強まれば「通貨の顔」を持つ金の市場に投資資金が逃避する。一方、プラチナの需要は工業用途が 7 割を占め、その多くが自動車の排ガスを浄化するための触媒に使う。自動車産業を中心に世界景気が落ち込めばプラチナの需要は減退し、国際相場に下げ圧力が強まる。97 年時点では世界の白金消費量の 4 割強を日本が占めており、日本経済の不安が国際商品市場でプラチナ売りを誘ったわけだ。

昨年から米国景気に回復傾向が強まり、米当局は危機対応の金融政策を正常化していく出口戦略に着手した。当然のようにマネーの動きも「危機モード」から「正常モード」へと軌道修正が始まる。かくして「異例の価格逆転」は解消した。金に逃避していた投資資金は株式市場に戻るだけで

なく、国際商品の間でも移動を始めた。変化はＥＴＦの投資残高に表れている。金ＥＴＦの主力銘柄「ＳＰＲＤ（スパイダー）ゴールド・シェア」の残高は最高を記録した 2012 年 12 月の 1353 トンから直近で 790 トン台と 560 トンも減少した。対照的にプラチナ、銀といった工業用途の多い貴金属のＥＴＦ残高は過去最高の水準にある。

値動きの激しさには注意を

主要商品の価格動向を分析し、企業にヘッジ手法を助言するマーケット･リスク･アドバイザリー（ＭＲＡ、東京・新宿）によると、プラチナ価格を金価格で割った比率は、代表的な米国の株価指数であるスタンダード・アンド・プアーズ（Ｓ＆Ｐ）500 種平均と相関関係が強まっているという。米国の株価は史上最高値を更新し、同時に白金価格を金価格で割った倍率は一時 1.3 倍台まで達した。景気回復と米株価の上昇が続き、正常モードへの移行が進めば、倍率はもっと上がることが予想される。逆に倍率が下がり、価格差が再び縮小するようだと世界景気と株価の先行きに暗雲が広がると読める。

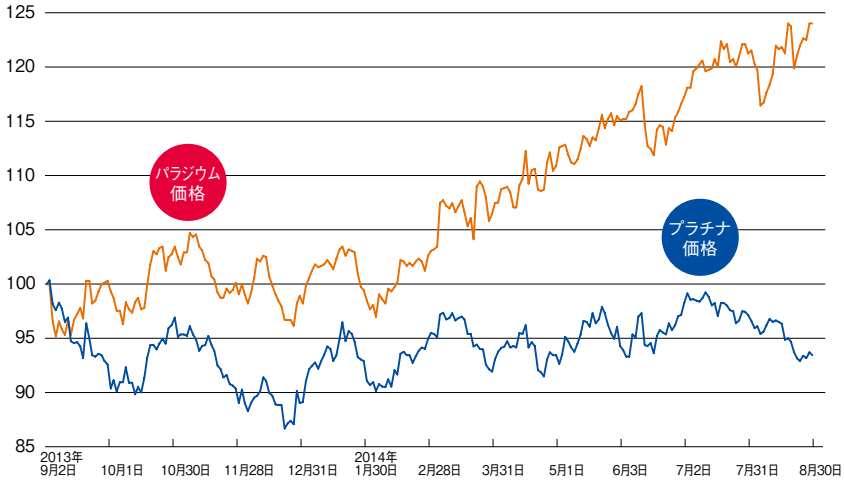
最近の相場動向でいえば、プラチナ族の中でプラチナよりパラジウムの値上がりが顕著で両者の価格差が縮小していることも興味深い。足元の価格差は 500 ドル近くまで接近し、３年前の 1000 ドルに比べ大幅に縮まっている。プラチナとパラジウムはともに年間の鉱山生産が 200 トン程度で、用途も自動車触媒が中心ということで共通している。ただ、インパラ・プラチナムなどの資源会社が８月の出荷量削減を通告するなどパラジウムの供給減少が深刻さを増している影響は大きい。プラチナはパラジウムに比べリサイクル供給量が多いことも安心材料だ。

さらに、同じ自動車触媒でもプラチナはディーゼル車に多く使われ、パラジウムはガソリン車が多い。そのためディーゼル車が普及している欧州の経済に不安が強まればプラチナの下げ圧力が増し、ガソリン車の多い米国や中国などで経済不安が高まればパラジウムの上値を抑える。金とプラチナの比価と同じく、プラチナとパラジウムの比価に着目することで世界経済の地域差を占うこともできる。逆もまたしかりで、欧州経済の不安が再燃すればプラチナの高値修正が進みやすいと考えられる。

ただし、国際商品や為替相場、株価もそうだが相場の先行きを正確に予測することは至難の技だ。とりわけプラチナやパラジウムはその希少性ゆえに流動性が低く、市場での値動きが金に比べて大きいことに投資家は気をつける必要がある。米株価が伸び悩んでいるのに倍率が上がり続けば 2008 年のような相場過熱を推測できる。市場での注目度が高まっているからといって、身の丈を超えた投資は禁物である。

プラチナとパラジウムの価格変動チャート

2013年9月2日の価格を100とした指数で表示



古代人たちの感覚がどのようなものであったか、21 世紀の今となってはもちろん定かではありません。しかし古代文明の遺跡などから発掘された金の装飾品の数々を眺めていると、金に対する人類の愛着がいかに深いものであったかを直感することはできます。

それはおそらく、金が太陽と見紛うような輝きを放つ物質であったからに他ありません。それがいつしか古代人の太陽信仰と分かちがたく結びつき、金は「太陽の象徴」として崇められるようになったものと思われます。

そしてもう一つ忘れてならないのは金の持つ「決して錆びない」という特異な性質が、人類の見果てぬ夢ともいえる「不老不死」をイメージさせるに足る要素であったことです。金が古代の「王権」にとって不可欠となった背景をここに見て取ることができます。

時をくだり、中世ヨーロッパのキリスト教世界で生み出された聖像や聖画に目を移すと、頻繁に「神々しい光」が登場することに気づきます。そして同時に、その「光」が、金泥または金箔で表現されていることを知ります。

金に対する人類の強い憧れは、世界の古代文明やヨーロッパ文明に限ったことではありません。

ミャンマーの古都パゴーにあるチャイプーン・パゴダ四面仏。
15世紀末にモン族の王が建立したとされる、高さ約27mの巨大なモニュメント。

写真で見る 驚きのゴールド ①

撮影：児島 一伸

チャイティーヨー・パゴダ（仏塔）。写真上、標高1100mの山頂にあって今にも丘を転がり落ちそうな奇跡の岩とパゴダ。下、一晩中続く巡礼者たちの祈り。

金の限りなき可能性

金のプレートと数千の宝石で包まれ闇に映えるシュエダゴン・パゴダ。まさに豪華絢爛。仏陀の頭髪が収められていると伝えられるミャンマー仏教の総本山。

現代のアジアや日本でも、金に対する憧れは息づいています。たとえば仏教国として知られるミャンマーでは、仏像や寺院は、眩しいばかりの金箔で包まれています。庶民はそこから救い感じ取っているのでしょうが、なんのことはない、じつは神や仏も金を好む存在なのかも知れません。

いえいえ、金を好むのは、人類や神仏だけではありませんでした。地球上には黄金色をした魚さえ存在します。金をめぐる世界は、まこと驚きに満ち溢れています。写真で見るワンダーな金世界。とくとお楽しみあれ。

写真上は、黄金の輝きを放つ熱帯魚ゴールデンセベラム。下は、JR博多駅の隠れキャラ金色のカエル。不思議なパワーを感じて耳目は集まる。

沖縄から東南アジアにかけて生息する蝶オオゴマダラのサナギ。
サナギの金色は害を遠ざけるためのアピールとの説がある。金には魔除けの意味もあるのだ。

佐賀県・唐津神社の秋季例大祭では、14台の曳山が笛・太鼓・鐘の音と「エンヤ、ヨイサ」の掛け声とともに練り歩く。写真は一番人気の八番曳山・金獅子。

ヨーロッパのダンス界でも注目される舞踏家・麿赤兒が率いる舞踏カンパニー「大駱駝鑑」による金の舞い。写真左は大須大道芸、右は白馬・野外公演での一コマ。闇に浮かぶエネルギッシュな舞いに観客は酔いしれる。

黄金に彩られた古代ギリシャ

神も人も金を求める

神話と歴史が渾然一体となって流れた古代ギリシャ。そこはまさに黄金の満ちあふれた世界でした。ギリシャの北部にそびえるオリンポスの山には神々が住み、「その宮殿は黄金で造られていた」と伝えられています。

神々も黄金づくしでした。太陽の神ヘーリオスは黄金と青銅に飾られた太陽宮に住み、昼は二輪の馬車に乗って空を駆けめぐり、夜は黄金の杯に乗って地下の川を西から東へと帰って行きます。

アテネの守護神アテーナイは黄金の糸でゼウスやオリンポスの神々を織り上げ、美と光明の神アポロは常に金の琴を携え、伝令役のヘルメスは商業の神でもあり、「錬金術の祖」ともいわれました。

金はまた「神々の王ゼウスと近しい存在」ゆえ、ギリシャ人は「神をなだめる供物」とし↗

➡金がトロイの金に結びついた」とすれば不思議な因縁です。

シュリーマンはその後、ギリシャ側の総大将アガメムノンが住んでいたというミケーネの宮殿も発掘します。ミケーネは「黄金の都」といわれていましたが、噂にたがわず金製品が王族の墓から続々発見され、シュリーマンは「この宝庫は一つで大博物館を満たすのに足りる」と言ったとか。

中でも目玉は黄金のマスクで、シュリーマンは「アガメムノンのマスク」と信じていましたが、その後、300年ほど前のものと分かりました。つまり、トロイから奪ったものではなかったのです。

また、アルゴー船探検隊の話では、黒海のもっとも奥にあるコルキス国の宝物「黄金の羊の皮」を奪っています。その真偽は定かではありませんが、当時、黒海の北のいまのウクライナの地は黄金を尊ぶ民族スキタイが君臨しており、それとの交易があったこと、その黄金が黒海沿岸からギリシャにもたらされていたことを示しているのかもしれ

て金を使っていました。だが、オリンポスに住む神々は人間臭く、いや人間以上に人間らしく振る舞っています。神々の王ゼウスも例外ではありません。

ゼウスは「美しい娘がいる」と聞くと、妻ヘーラーの眼を盗んで通っていきました。ある時、アルゴス王アクリシオスの娘ダナエーの元に黄金の雨になって忍び込みます。この２人の間に生まれたのが英雄中の英雄、あの「眼を見ると石になるといわれた魔女ゴルゴー」を退治したペルセウスということになっています。

ギリシャ神話は単に神話に留まってはおらず、現実世界にも入り込んでいます。叙事詩イーリアスやオデュッセイアの中に描かれたトロイ戦役は神話と思われていましたが、シュリーマンがトロイの遺跡を発掘、いまではトルコ観光の目玉になっています。この時、発掘した宝はドイツに送られ、博物館を造って飾られましたが、第二次世界大戦で行方不明になっています。ロシアが持っていったとの説もありますが・・・。

シュリーマンは貿易で富を得て発掘に乗り出したとされていますが、カルフォルニアのゴールドラッシュにも関わり、そこで 40 万ドルもの巨額の富を得ています。「カルフォルニアの

古代人の感覚がどのようなものだったか、
いまとなっては定かではありませんが。
古代ギリシャの神話や歴史を紐解くと、
溢れんばかりの金への愛着に圧倒されます。

岡本（おかもと） 匡房（まさふさ）

1964年慶應大学経済学部卒、同年日本経済新聞社入社、日経産業消費研究所商品研究部長兼日経ゴールドレポート発行人。現市場経済研究所主幹。

ません。

ギリシャは金をほとんど産出しませんでしたが、それだからこそ金を崇めました。古代ギリシャ最大の都市国家アテネでは黄金と象牙の約 12 メートルの女神像が造られ、古代最高の建築といわれるアクロポリス神殿の中に奉られたといいます。

ただ、その費用を戦費として各国から預っていたデロス同盟の金庫から出したため、同盟国の離反をまねき、アテネは衰亡に向かいます。「人より神を大事にする」とろくなことはないようです。

アテネと並ぶ強国スパルタではリュクールゴスが金貨を廃止しました。「人々の欲をなくすには貯蓄をなくすしかない。それには金貨、銀貨を廃止するのがよい」と考えたのです。だが、このような人間性を無視した政策が長続きするわけがありません。スパルタは、強国となり、アテネを滅ぼし、一時、ギリシャの覇権を握りましたが、その後、衰退していきます。

最後に忘れてはならないものに古代オリンピックがあります。これはエーリス地方のゼウスの神殿のあった場所で４年に１度行われました。優勝者には金メダルではなく月桂冠が授与されました。

だが、だんだん、「都市の名誉」をかけた戦いとなり、優勝者には出身都市から巨額の富が贈られるようになり、堕落していきます。なにか、現在のオリンピックと酷似しています。ただ、「オリンピック期間中は戦いはやめた」といわれています。こちらの方こそ、ぜひ真似して欲しいものです。

宝ともあだともなる お金の二面相―名作文学にみる

「持つ人の心によりて宝ともあだとなるは黄金なりけり」―昭憲皇太后

明治天皇の皇后、昭憲皇太后の御製だが、お金の持つ二面性をズバリついている。お金など持ったことも使ったこともない身でありながらお金の不思議な神髄をうがつ。

江戸川柳に、「江戸者の生まれそこない金を溜め」とある。「宵越しのカネを持たない」気風の良さを謳う反面で、「これ小判たった一晩居てくれろ」とお金に土下座する。金色燦然たる金貨を飽かず眺めつつ、せめて一晩なりともわが家に泊まっていってほしいと願うのも同じ江戸っ子である。

「灰吹きと金は溜まるほどきたない」と忌避されるかと思えば、「百両をほどけば人をしざらせる」――100 両包みの封を切ると、見ている人は圧倒さ↗

➡好法師のようなことはいっておれない。「金が世間の敵ならどうぞ敵にめぐり合いたい」（大阪にわか）。経済の中心地、大阪ではことのほかお金の重要性が説かれる。その代表は井原西鶴（1642 ～ 93）。

「人の家に有りたきは梅桜松楓、それよりは金銀米銭ぞかし。庭山にまさりて、庭蔵のながめ、四季折々の買置き、これぞ喜見城の楽と思い極め…」（日本永代蔵）

西鶴は「徒然草」を十二分に意識して梅、松、桜、楓をバッサリ切り捨てる。前庭の築山より裏庭の土蔵を眺め、そこには四季折々の品を買いだめておく。将来の値上がりを見越して相場の安い時に買い込み、土蔵に貯える。これこそ謡曲にある喜見城の楽しみと極め込む。

「楽しみは銭くれし時」―橘曙覧

幕末の国学者で歌人の橘曙覧（1812 ～ 68）は「楽しみは…時」と「独楽吟」52 首で知られるが、お金も登場する。

「楽しみは物を書かせて善き値惜し気も無く人にくれし時」

れて思わず後ずさりする。

溜めない主義の勝海舟

江戸城明け渡しの大任を果たし、江戸を兵火から救った勝海舟（1823～99）は「わしは金を溜めない主義だ」と、次のように述べている。

「わずかの金を溜めると旧臣らがよってきて使い尽くすのだ。またそれを溜めると人々がこれを当てにするから、かえって経済がむつかしくなる。みな増やしてもうけようとするから損をするのだよ」

勝のルーツをたどると兼好法師に行き着く。

「財（たから）多ければ、身を守るにまどし。害を買い、わづらいを招く中だちなり。身の後には金（こがね）をして北斗を支ふとも、人のためにぞわづらはるべき」（徒然草・第38段）

財産が多いと外敵から身を守ることが大変、死後は黄金をうずたかく積んで北斗七星を支えるほどため込んだとしても、わずらわしいことを引き起こす原因になるだけだという。だから兼好法師は「金は山に捨て、玉は渕に投ぐべし。利に惑うはすぐれて愚かなる人なり」となる。

庭の築山より裏庭の米蔵－西鶴

時代はくだって江戸期に入り、貨幣経済が盛んになると兼

お金は人を豊かにもし、貧しくもする。
世の中がマネー資本主義に傾きつつある今、
お金との間合いをどう図るのが賢いのか、
名作文学にそのヒントを探ってみたい。

鍋島（なべしま） 高明（たかはる）

1936年高知県出身、59年早大政経卒、同年日本経済新聞入社、商品部次長、編集委員、日経総合販売を経て、97年市場経済研究所代表取締役

「楽しみは銭なくなりてわびおるに人の来たりて銭くれし時」
「楽しみは欲しかりし物銭ぶくろうちかたぶけて買い得たる時」

大当たり「金の世の中」―黙阿弥

劇作家の河竹黙阿弥（1816～93）が「人間万事金の世の中」を発表するのは明治12年のこと。新築された築地・新富座で大当たりをとったのは当時の世相もまた「金の世の中」になっていたということだろう。横浜の大問屋の主人夫婦と娘の会話。

母）あんまり見にくい男を亭主にするのもかわいそう。
娘）業平さんでも、ひょっとこでも、灯りを消したその時は別に替わりはござんせぬ。
父）おお、金に惚れるとは開化、進歩、さても開けた娘だなあ。

時代はさかのぼるが室町時代の連歌の宗匠、山崎宗鑑（1465?～1553?）は名歌の下の句に「それにつけても金の欲しさよ」と置き替えて喜んでいたという。

たとえば、「田子の浦ゆ打ち出てみれば白妙のそれはさて置き金の欲しさよ」となる。
近代の石川啄木に当てはめるなら「やはらかに柳おあめる北上のそれはさておき金の欲しさよ」。

黄金の二面性は洋の東西を問わない。

セネカ「市場を騒がすものは黄金なり、親子をして使嗾（そそのかす）するものは黄金なり、謀殺毒殺を生ずるものは黄金なり」

シェークスピア「黄金さえ多ければ黒を白に、醜を美にし、曲を直にし、卑しさを貴くし、老いたるを若くし、怯（おびえ）を勇にす」。

マリリンを愛したジュエリー

アメリカがもっとも光り輝いていたと言われる黄金の1950年代。
それはまたハリウッド映画全盛期の最後と重なりあう10年でもありました。
その光と影を背負って疾走した女優がマリリン・モンローでした。

その昔「紳士は金髪がお好き」という映画がありましたね。マリリン・モンローを一躍スターダムに押し上げた作品として世に知られています。映画評論家の淀川長治さんは、この作品を 1953 年のニューヨークでご覧になったそうです。劇場の大きな看板ポスターには、共演した二人の女優ジェーン・ラッセルとマリリン・モンローが、お尻をつき出しステッキをついてお茶目な笑顔で振り返る姿が描かれていたそうです。

劇場の前を通る人がみんな、ジェーン・ラッセルはよく知っていて、けれどマリリン・モンローのことはあまり知らなかった、といいます。前作「ナイアガラ」で披露した腰を大きく振って歩くモンロー・ウォークが一部で話題になっていたとはいえ、まだそれほど売れてはいなかったのですね。ところが封が切られるとマリリンの人気がジェーンを圧倒。その後のマリリンの人生を変えた記念すべき一作となったわけです。

歌と踊りがほどよく盛り込まれたミュージカルコメディですが、「愛くるしい金髪のローレライ役を演じた」マリリンが身にまとう、黒いドレスやオレンジのワンピース、そしてゴールドやプラチナジュエリーの、なんとゴージャスなこと！

ところで、この作品でもうひとつ有名になったものがあります。なにかと言えば、24.043 カラットあるというイエローダイヤモンド「バローダの月」です。当時の所有者だったデトロイトの宝石商が自社の PR のために貸し出し、それをマリリンがラストシーンで身に付け「ダイヤモンドは女の子の一番の親友」と歌いました。そこに往時の所有者マリア・テレジアの名前や、「身につける者は世界的に有名になる」という伝説が加わったものだから堪りません。

マリリンと「バローダの月」は分ち難く結びつき、またたくまに一世を風靡しました。その後マリリンは「七年目の浮気」など 9 本の作品に主演し、世界的なセクシー・アイコンとなりました。けれど私生活は恵まれたものとはいえず 1962 年に 36 歳の若さでこの世を去ります。

まさにアメリカの黄金の 50 年代を象徴するような女優でしたが、淀川長治さんはこんなことも語っています。マリリンをセックス・シンボルとして追いまくった人を心の底から憎悪する。彼女はスィートそのものの女優であった。詩人で評論家の大岡信さんは、彼女へのオマージュをこう結んでいます。マリリン、マリーン、ブルー。

マリリン・モンロー（Marilyn Monroe、1926年6月1日～ 1962年8月5日）アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス出身の女優。本名、ノーマ・ジーン・モーテンソン（Norma Jeane Mortenson）20世紀を代表する女優として広く認知されている。

Marilyn Monroe

写真提供：田中貴金属ジュエリー株式会社

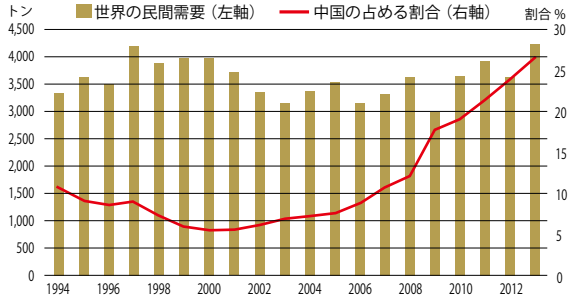
中国の金市場：その歩みと展望

ワールド ゴールド カウンシル
リサーチ・アナリスト
津金 眞理子（つがね まりこ）

今や中国は世界の金需要を左右する主要な国です。ワールドゴールドカウンシルでは、2014 年春に「中国の金市場：その歩みと展望」と題するレポートを発表しました。中国が世界を代表する金大国として浮上する過程や今後の金需要の見通しについて述べています。ここではその概要をご紹介します。

2013 年世界の民間金需要（*）に占める中国の割合は 26％です（図 1）。金価格の値下がりを受け、中国の消費者および投資家による宝飾品や金地金の購買量は大幅に増加しました。今日では、中国の宝飾品市場および金地金現物市場は、いずれも世界最大規模です。それには主に次の 3 つの理由があります。

図 1：世界の金の民間需要と中国の占める割合



Source:Thomson Reuters GFMS, Precious Metals insights, World Gold Council

◆ 文化

中国には金を愛する文化があり、祝い事には金の贈り物が広く利用されます。新しく子供が生まれると金の茶碗や箸を贈ったり、春節（旧正月）には家族や恋人に金の置物をプレゼントしたり、母の日も金のアクセサリーを贈る機会となっており、また最近中国の宝飾業界はバレンタインデーを重要なイベントと位置付けています。

◆富の増加

過去 10 年間だけでも中国経済の成長率は 140％と高く、現在では人口超大国であると同時に世界第 2 位の経済大国、世界最大の貿易国です。民間の調査機関は、購買力を持つ中間所得層の数は現在の 3 億人から 2020 年には 5 億人に達すると予想しています。中国国民の富の増加は、金需要の支えとなっています。

◆政府援助

中国の金需要は政府の援助なしでは今日ほど拡大する事はなかったでしょう。当局は上海金取引所（SGE）を含む、主要な機関を創設しました。2004 年には、個人へ金地金の保有を解放するなど、金の購入に関する規制を撤廃しました。また最近では金の輸入免許を持つ銀行の数を増やし、さらには上海自由貿易区に「金の国際ボード」の設立計画を進めています。これらは金市場の成長と発展を支えています。

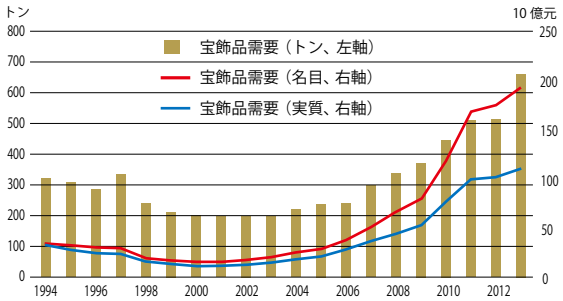
金の宝飾品市場

中国における金需要の根幹をなすのが宝飾品です。その需要は 2013 年には 669 トンに達し、民間部門の金需要の 60% 近くを占めています（図 2）。国民の可処分所得の増加、中間所得層の台頭、さらに都市化が 需要増を支えています。宝飾品需要はさらに増えて、2017 年には少なくとも 780 トン以上になると予想しています。

中国南部に位置する深センは、鄧小平が主導した改革開放政策で 1980 年に経済特区に指定されましたが、それまでは人口 30 万人の小さな町でした。今では中国の金加工品の 70% 以上が深セ

(*) 民間金需要には、一般消費者による宝飾品、金地金・金貨の需要が含まれます。

図 2：宝飾品需要（重量と金額）



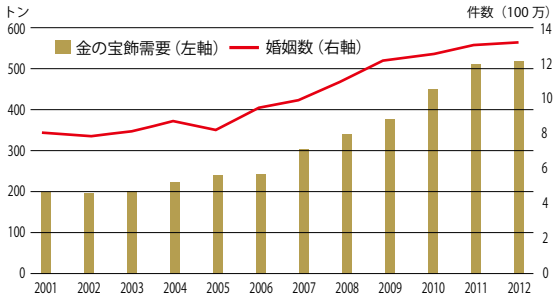
Source:Thomson Reuters GFMS, Shanghai Gold Exchage,Precious Metals insights, World Gold Council

ン産であり、公的機関に登録されている宝飾品メーカーの数は 4,000 社に上っています。金加工品の 85% 以上は国内市場向けです。現在では人口 1,000 万人を 超す世界的に知られる経済都市として 賑わいを見せています。

中国市場で販売される金製品の約 85% は 24 金（純金）です。2013 年の宝飾品需要の増加分はすべて 24 金製品が占めました。「純金」はほぼ重さを基準にして売られています。店頭では、顧客が選んだ製品の重さを店側が測り、それに上海金取引所のスポット価格を掛けて、労賃と小売マージンを上乗せして売り値が決まります。

中国における 24 金の需要の 40% 近くは、結婚に関連していると推計されています。地方都市ではこの比率がさらに高くなる傾向にあります。結婚適齢期の人口増と社会全体の所得の向上が相まって、結婚指輪を含む伝統的に結婚に欠かせない新郎から新婦への贈り物が宝飾品需要を押し上げています。中国で結婚をするには、ネックレス、ペンダント、ブレスレットのいずれかに、指輪、イアリングからなる「結婚三金」と呼ばれる 3 点セットが不可欠です。中国南部では特にブレスレットの人気があり、また同地域では多くの場合 3 点セットより 5 点セットが好まれています。中国政府の婚姻に関するデータによると、年間婚姻数は 2012 年には 1,320 万件と、2000 年代半ばから 60% も増えました（図 3）。労働年齢人口の増加がもたらす「人口ボーナス」が 24 金の需要拡大に大きく貢献したことは言うまでもありません。しかし国連統計は、中国の労働年齢人口が 2015 年は 9 億 3,800 万人に達した後、2020 年には 9 億 2,900 万人、2025 年には 9 億 800 万人へと減少していくと予測してします。需要を支える柱である人口構造に変化が起きるのは必至ですが、国民所得の増加が人口減の影響を相殺すると見られています。

図 3：中国における婚姻数と金の宝飾品需要

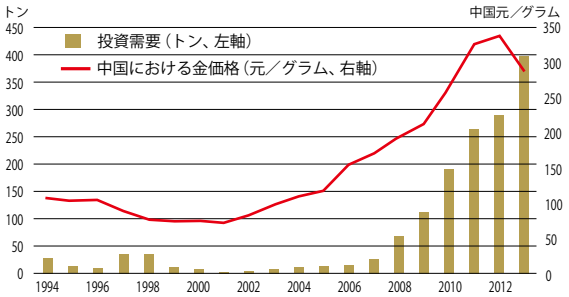


Source:Ministry of Civil Affairs, Thomson Reuters GFMS

金の投資需要

中国で金地金への投資が解禁されたのは 2004 年です。中国人民銀行（中央銀行、PBoC）は民間の個人による金地金の売買を 1950 年以来初めて認可しました。その歴史的な決定以来、中国は世界最大の金地金市場へと変貌しました。2004 年当時の金地金の需要はわずか 10 トンでしたが、2013 年に中国の国内投資家が購入した金地金と金貨は 397トン（推計）に達しました（図 4）。

図 4：金の投資需要と金価格（中国元／グラム）



Source:Thomson Reuters GFMS, Shanghai Gold Exchage,Precious Metals insights, World Gold Council

この驚異的な増加の背景には、中国では投資手段が限られているという事情があります。さらに、変動が大きな株式、非流動資産、さらには実質利息がマイナスの銀行預金への過剰な偏りを避けて、多様な資産運用を望む中国国民の願いも反映されています。

しかし図 4 は、金市場が自由化された 2004 年以降、金投資が非常に穏やかなペースで進んだことを示しています。これは、国内の精錬業者や銀行が新たな環境下での商品開発と販売網の整備のために時間を必要としたからです。投資家サイドでも、中国では過去半世紀にわたって、宝飾品と違い手にすることができなかった金地金への投資のメリットを理解するのに時間がかかりました。中国工商銀行（ICBC）と上海金取引所が連携して、個人の現物取引への参加を初めて可能にする商品「ゴールド エクスパート」を導入したのは 2005 年後半で した。2006 年 12 月には、チャイナゴールドが、上海金取引所で決まる金価格に応じて取引できる投資用金地金を買い戻し保証付きで売り出しました。

金地金市場の主流は投資用金地金です。投資用金地金は純度が 99.99%（9999 ＝ フォアナインズ）で、サイズは 1 グラムから 1 キログラムまであり、上海金取引所の現物価格に比較的低いプレミアムを上乗せした価格で販売されます。フォアナインズの投資用金地金をすべての重量サイズで取り揃えている銀行支店や宝飾品店舗の数は増えつつあり、数千に上る銀行支店が主に販売しています。

投資用金地金の他にギフト用金地金があります。純度は 99.99% で通常は標準サイズ（グラム）で販売されますが、伝統的な重量単位である「テール」（両）も使われます。同じ重量の投資用金地金よりマージンが高く設定されています。ギフト用は、その美しい仕上がりとモチーフの豊富さが際立っています。特に人気なのが、春節（旧正月）に売られるその年の干支の動物をあしらったギフト用金地金です。2014 年は午年ですので、馬をモチーフにした商品が全国で販売されました。ギフト用金地金は主に宝飾品店で販売されますが、一部の銀行でも取り扱っています。しかし、2013 年には政府の腐敗防止キャンペーンの影響で大きく縮小しました。

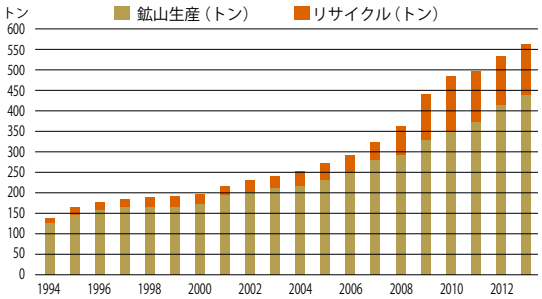
金の現物投資商品には金貨もありますが、中国造幣公司が発行する「パンダ金貨」は例外ですが、中国では金貨の人気は伝統的に高くなく、販売量も限られています。

中国における金の生産とリサイクル

中国は今や世界最大の金生産国です。過去 30 年で大きく飛躍し金の自給量も大きく伸びたものの国内需要の伸びに追い付かない状況です。

1978 年改革開放政策が始まった当時、中国の金採掘量は年間 10 トンにも満たないものでした。生産量を増やすために、中国黄金（チャイナゴールド）の前身が設立され、また金の埋蔵を調査して金鉱を開発する組織を作るなど、1980 年代には様々な方策が取られました。その結果、1990 年代前半には中国の金生産は 100 トンを超えるまでに上昇し、その後も著しく生産量を伸ばし、2007 年に世界最大の金産出国になりました。さらに 2013 年には過去最大の 437 トンの生産量を記録し、世界の金生産の 15％を占めるまでになっています（図 5）。

図 5：中国国内の金生産とリサイクル量



Source:Thomson Reuters GFMS, World Gold Council

しかし今後、年間 400 トン以上の生産を維持できるかどうかについては疑問の声があります。過去 30 年間のような顕著な生産の伸びは維持されず、2、3 年後にはピークとは言えないまでも、生産が横ばいになる兆しがあります。その理由は、採掘可能な粗鉱量が減少に転じている可能性があるうえ、鉱石の品位の低下や生産コストの上昇が見られるからです。また、金採掘に対する環境規制など、規制が強化されることも予想されます。

中国の金鉱山産業は、600 以上の金鉱山に細分化され、大半は小規模で平均年間生産量は 300 kgにとどまります。2002 年には金鉱山業者は少なくとも 1,200 社あったとされていますが、現在では整理統合され上位 10 社がシェアを増やし、中国の総生産量の約半分を占めています。2012 年の公式生産データによると、金の約 85％は金鉱山で生産され、15％は銅など精錬過程で回収される金です。

中国のリサイクル金の主な供給源は、国内では宝飾品スクラップ、輸入は大半がエレクトロニクス製品のスクラップです。スクラップの場合は様々なルートを経て集積されるため、発生元を正確に知ることは大概難しいのが現実です。国内のリサイクル量は中国で宝飾品の保有量が増加するにつれ増えています。

中国では 2008 年以降、需要が供給を上回る金の「供給不足」に拍車がかかっています。それは主に香港からの輸入で補われています。香港は、中国の金加工で最重要な都市である深センから 30 キロの距離にあり、重要な金の集散拠点です。香港からの中国向け金地金の公式輸出は近年急増しており、2013 年は 1,490 トンに上りました。

◆ ◆ ◆

今後

中国の莫大な人口、経済成長の継続、金志向の文化を背景に、今後も中国は世界の注目を集めて行くと思われます。ワールドゴールドカウンシルでは、中国の民間金需要は、2017 年までに現在の 1132 トンから 1350 トンになると予想しています。

※レポートの詳細については、http://www.gold.org/investment/gold-investment-research をご参照ください。

2013年の世界の金の供給と需要

全体の動き

2013 年には、機関投資家が金投資を引き揚げたことによって金価格が年間変動ベースで29％も下落したため、現物需要が史上最高水準の 4,957 トンに達し、前年の水準から 15％も増加すると同時に、新産と中古金の合計供給量を703 トンも上回った。

昨年の特徴としてはセンチメントの大きな変化が二点挙げられ、今後数年間はこの二点が金相場に影響を与えることになろう。第一点は、機関投資家が価格変動のみをリターンの源泉とする（non-yielding）資産クラスから投資を引き揚げたことである。背景には､株式相場の高値更新や、量的緩和が終了するとの見通しを受けた国債利回りの回復があった。ETF の現物保有量も 2003 年の ETF 発行以来増加の一途を辿ってきたが、このような投資引き揚げにより、2013 年 1 月 1 日に 2,698 トンでピークを付けた後、年末までに880 トンも減少した。こうした動向を受けて、金相場は相次ぐ下落局面に見舞われたが、これによって小口投資が再燃。これが第二点目のセンチメントの大きな変化となった。

中国、インド、東南アジア、トルコ、中東といった価格動向に敏感な市場では 2013 年第 2 四半期に買いが急増し、北半球が夏の間は旺盛な買いが持続した。需要があったのは、投資と装飾の双方を目的とする高カラットの宝飾品や、現物金地金ならびにコインへの投資であった。実際、東アジア市場では、金が重要な貯蓄手段であると同時に不安定な金融情勢に対するヘッジ手段としての地位を固めているため、中国では投資目的の金地金購入量が 2013 年中に 45％も増加して 360 トンに達した。

東洋の需要増加と西欧の機関投資家による投資引き揚げを背景として、世界の金塊出荷量は大幅に増加し、金額ベースでも 25％増の 2,340 億ド

◆世界の金の供給と需要の推移

単位：トン

		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
供給	鉱山生産量	2,504	2,561	2,496	2,499	2,430	2,613	2,741	2,839	2,861	3,022
	中古金スクラップ	881	902	1,132	1,005	1,350	1,726	1,711	1,659	1,634	1,280
	正味生産者ヘッジ	-438	-92	-434	-432	-357	-234	-106	11	-40	-48
	供給合計量	**2,948**	**3,371**	**3,194**	**3,071**	**3,424**	**4,104**	**4,346**	**4,509**	**4,455**	**4,254**
需要	宝飾品	2,619	2,721	2,302	2,425	2,306	1,817	2,034	2,029	1,998	2,361
	工業用加工量	418	440	471	477	464	414	469	458	415	409
	エレクトロニクス	266	286	316	322	311	275	326	320	284	279
	歯科・医療	68	62	61	58	56	53	48	43	39	36
	その他の工業用	85	92	95	98	97	87	95	95	92	93
	公的部門の正味需要	-479	-663	-365	-484	-235	-34	77	457	544	409
	小口投資	361	412	427	442	915	825	1,229	1,569	1,357	1,778
	金地金	215	263	238	238	654	536	935	1,242	1,036	1,377
	コイン	146	148	189	204	261	289	295	327	321	401
	現物需要	**2,920**	**2,909**	**2,835**	**2,861**	**3,450**	**3,023**	**3,809**	**4,512**	**4,315**	**4,957**
	現物の過不足	**28**	**462**	**359**	**210**	**-26**	**1,081**	**536**	**-3**	**140**	**-703**
	ETFの在庫構築	133	208	260	253	321	623	382	185	279	-880
	取引所の在庫構築	83	29	32	-10	34	39	54	-6	-10	-99
	ネットバランス	**-188**	**225**	**67**	**-33**	**-381**	**418**	**100**	**-182**	**-129**	**277**
金価格（ロンドン値決・午後､米ドル/オンス）		**409.17**	**444.45**	**603.77**	**695.39**	**871.96**	**972.35**	**1224.52**	**1571.52**	**1668.98**	**1411.23**

出所：GFMS、Thomson Reuters　※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
正味生産者ヘッジは鉱山会社のゴールドローン、フォワード・ポジション、オプション・ポジションが現物市場に与える影響の推移を示しています。

（コメントは、GFMS GOLD SURVEY 2014日本語ダイジェスト版より抜粋）

ルに達して史上最高額を記録した。西欧の投資家が売却した金を中国が軒並み購入するなど、飽くことのない買い意欲の中で、2013 年後半には金先物市場がわずかながら逆ザヤとなった。つまり、小口投資用商品の作成にはロンドン市場受渡適合品（400 オンス以下のラージバー）を精練し直すことが必要だったが、精練能力が追い付かず、需要への対応が遅れた。その結果、リードタイムが長期化し、多くの市場で現物が極めて割高となったのである。

供給のポイント

● 2013 年の鉱山生産量は 6% 増の 3,022 トンとなり、史上最高水準に達した。

●世界平均産金コストは、現金支出を伴わない減損費用によって 27%増の 1,620 ドル /oz となったが、この評価損を除くと 1,205 ドル /oz であった。

● 2013 年の中古金スクラップ供給量は世界全体で 22%減の 1,280 トンにとどまり、6 年来の最低水準まで落ち込んだ。主因はドル建て金価格の大幅な下落にあった。

需要のポイント

● 2013 年の現物総需要は 15%増加した。背景には、宝飾需要と小口投資の増加が工業用需要の落ち込みを補い、公的部門の正味購入量も需要を支えたことがあった。

● 2013 年の宝飾需要は金価格の下落に支えられて 18%増の 2,361 トンに達し、6 年ぶりの高水準となった。

●工業用需要に関しては、エレクトロニクスセクターの節約基調が続いたため、加工量が 2%とわずかながらも減少した。

●現物金地金投資は 33% も増加して 1,377 トンの新記録に達した。主因は、中国とインドを中心とする主要アジア市場における需要の急増にあった。

●公的コインの加工量は堅調に伸びて 297 トンに達し、記録を更新した。これとは対照的に、メダルと模造コインについては、インドの需要減少が主因となって全体の需要も減少した。

●公的部門の正味購入量は前年比で 25%減少したものの、過去の水準と比べるとまだ高い水準にある。

●生産者のヘッジ解消による正味需要は 48 トンであった。

◆日本の金の供給と需要の推移

単位：kg

		2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
供給	新産金	133,311	149,020	129,082	145,535	80,983	87,117	93,152	86,687	66,311	53,136
	再生金	29,745	29,795	50,459	36,885	39,127	18,409	16,193	18,931	18,195	14,033
	輸入金	19,544	32,617	13,612	12,178	10,890	4,833	1,596	1,518	2,212	8,373
	国内流通（受入−払出）	45,812	92,456	-12,636	14,332	60,099	17,791	11,020	23,740	51,606	51,432
	供給合計量	**228,412**	**303,888**	**180,517**	**208,930**	**191,099**	**128,151**	**121,961**	**130,876**	**138,324**	**126,973**
需要	消費者需要	174,131	162,686	182,907	186,888	137,514	87,841	97,110	77,200	70,135	48,109
	電気通信機器・機械部品用	134,379	118,282	126,258	125,165	84,903	54,979	60,868	46,649	38,364	28,466
	歯科・医療用	13,633	12,647	12,939	12,039	11,731	10,354	9,784	8,300	8,893	7,982
	メッキ用	16,947	14,114	17,597	22,276	13,836	4,798	5,596	2,718	3,703	2,305
	消費者需要その他	9,172	17,643	26,112	27,408	27,044	17,711	20,862	19,534	19,175	9,355
	準消費退蔵	31,797	30,056	28,127	29,010	28,530	21,483	23,396	32,453	21,673	18,473
	宝飾用	26,996	25,401	22,412	23,121	22,423	16,264	20,038	15,395	11,021	9,036
	美術工芸用	2,406	2,016	1,724	1,411	1,209	1,018	1,049	946	846	841
	メダル用	718	1,009	910	752	484	692	383	248	181	29
	準消費退蔵向けその他	1,677	1,631	3,082	3,726	4,414	3,509	1,926	15,865	9,625	8,566
	私的保有（退蔵−退蔵放出）*	28,445	-5,427	-63,394	-65,257	-50,637	-27,542	-36,353	-52,208	-7,468	1,546
	退蔵（＋）	75,796	61,958	38,573	36,287	69,446	47,471	44,249	50,423	38,352	56,546
	退蔵放出（−）	47,352	67,385	101,967	101,544	120,083	75,014	80,602	102,631	45,820	55,000
	計	**234,373**	**187,315**	**147,640**	**150,641**	**115,407**	**81,782**	**84,153**	**57,445**	**84,340**	**68,128**
	輸出	12,912	83,471	57,682	63,923	77,739	46,083	39,997	66,284	64,201	60,894
	需要合計量	**247,285**	**270,786**	**205,322**	**214,564**	**193,146**	**127,865**	**124,150**	**123,729**	**148,541**	**129,022**

出所：経済産業省「貴金属流通統計調査」

＊私的保有データの表記について、過去、誤りがございましたのでお詫び申し上げます。今回より新たな表記とさせていただいております。「退蔵」とは個人の現物購入、「退蔵放出」とは個人の現物売却を指します。ここでは売買の動きを示す観点から両者ともプラス表示とし、その差分を「私的保有（退蔵 − 退蔵放出）」として表しています。

プラチナ・ジュエリーの需要動向
～現在から未来へ～

年間に採掘される量がゴールドと比べても圧倒的に少なく、生まれながらの白い輝きをもつプラチナは世界中の人々を魅了してきました。1990 年代の初頭、プラチナ・ジュエリーの消費量は 40 トン台でしたが、今やほぼ倍にまで成長しました。どうしてプラチナ・ジュエリーはこのように女性の心を掴み、またこれからどうなるのでしょうか？プラチナの持つ純粋性、希少性、永遠性という 3 つの価値からそれを読み解きます。

プラチナ・ジュエリーの「純粋性」純度の高さは価値の高さ

国内でプラチナ・ジュエリーは純度90％の「Pt900」、ゴールド・ジュエリーの場合は純度75％の「K18」が多く流通しています。近年、特にブライダルジュエリーでは純度95％の「Pt950」やそれ以上のものも多く流通するようになり、その純度はK18と比較しても20％の差があります。日本以外の国でもPt950が多用される傾向であり、その純度の高さは際立っています。こうした純度の高さはそのまま高い価値として支持される要因となっています。

■プラチナの白は「天然の白」

プラチナ・ジュエリーは生まれながらの白い輝きを放っています。一方でプラチナに似た色をもつホワイトゴールドは、金色のゴールドに「割金」を混ぜることによって色を白く変化させ、主にロジウムと呼ばれるプラチナ族の貴金属のメッキを掛けることによって、プラチナ・ジュエリーに似た色を作り出しています。ともに同じく貴金属に分類されるものですが、その色の作られ方には大きな差があるのです。

プラチナの「希少性」
プラチナは採れる地域も量も限られた希少な貴金属

プラチナは採掘される場所が限られている貴金属です。世界の７割以上のプラチナは、南アフリカ共和国１国で産出されており、同じく希少なゴールドと比べても、年間供給量に大きな差があります。これまで人類が手にしたゴールドの量はオリンピックプール３杯分とも言われていますが、プラチナは足首がようやく浸かる程度。とても希少な貴金属です。

プラチナの「永遠性」
日常生活で変質変色しない

プラチナは熱にも強く、汗や温泉、そして日常生活に存在するような酸やアルカリにも変質変色することがなく、いつまでもその美しい白い色を保つことができます。そうした性質から、消費者調査などでもプラチナは、「いつまでも長く楽しめる」、「一生もののジュエリー」と評価され、消費者に支持され続けています。

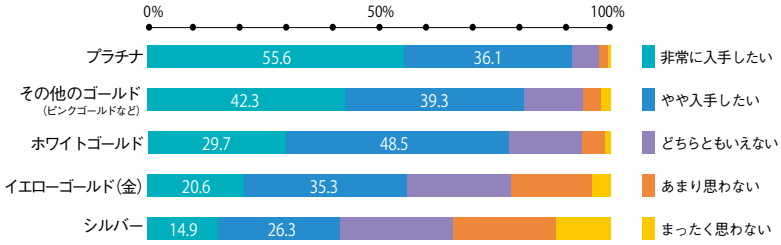
■母から娘へ

プラチナは粘り気があるため、小さな爪でしっかりと大切な宝石を留めておくことができます。小さな爪で留めた宝石はより多くの光を取り込み、輝きをさらに増していきます。さらにプラチナの「生まれながらの白」は宝石を引き立たせ、しかもその白い色はずっと変わることはありません。そのためプラチナは、日常生活で毎日着けるジュエリーにも、親から娘へとずっと引き継いでいきたいジュエリーにも最適な貴金属です。

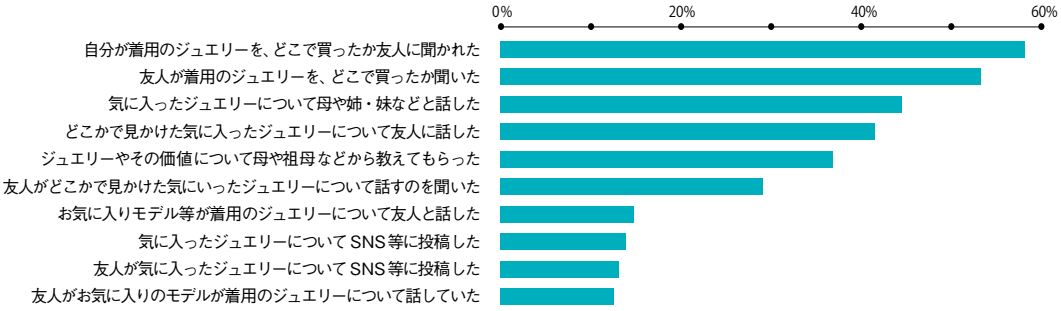
次世代の消費者が魅力に感じるプラチナ・ジュエリー

過去に弊社が行なった調査結果からも、若年層のジュエリー離れが顕著となっています。しかしながら、ジュエリーに関心ある層のプラチナ・ジュエリー入手意向は非常に高い状態が保たれています。

素材別ジュエリー入手意向（ジュエリーに関心ある18～34歳の層へのPGI調査）



そうした方々に、家族・友人・オンラインなど様々な場面で、ジュエリーがどのように話題に上がるかを調べたところ、「友人が着けているのを見て」、「友人に着けているものを見られた」ことで話題に上るケースが過半数で見られました。そしてその後に続くのが、「家族と話題にしている」ということです。



若い次世代消費者が実際にジュエリーを着用しているのを見て、友人と話題にする傾向が顕著に見られていますが、3番目に続く「家族と話題にした」という点において、現在のジュエリー主力ユーザーである母親層が、娘にジュエリーについて話す / 教えるような機会が拡がると、必然的に友人とお話しする機会も増し、関心度が高まる可能性も出てきます。同時に母と娘が一緒にジュエリーを楽しみ、母から娘へとジュエリーが引き継がれるような機会も増えてくる構図も見えてきます。
高い価値をもつプラチナ・ジュエリーが日本の次世代消費者にも好まれるようになるためには、ジュエリーに関心ある層の方々がよりジュエリーに関心を持っていただけるような魅力的な展開をする、そして、現在の主力ユーザー層であるその母世代の方々が娘とジュエリーについて話していただく機会を作ることが、カギとなると思います。

2013年の世界のプラチナの供給と需要

白金族金属（PGM）市場では 2013 年の大半を通じて、南アフリカの鉱業セクターの動向に関心が集まり、2014 年に入ってからも同様の状況にある。これに加えて、ウクライナの動向とその影響、特にパラジウム市場への影響が常に供給懸念材料となり、相場を支えている。

2014 年のプラチナ市場は南アフリカの鉱山ストライキによって大幅な供給不足になると予想されるが、2013 年は 2012 年の供給不足から 49 万オンス（15.1 トン）の大幅な供給過多に転じた。昨年はこれが明らかな主因となって、プラチナ価格が軟調に推移し、年間平均価格が 2009 年以来の最低水準まで落ち込んだ。供給過多に転じた主因は、プラチナ需要が大幅に減少して世界金融危機の発生以来の最低水準になったことにあった。

この背景には、主要セクター以外の多くで需要が変化したことがあった。主要な需要源に関しては、宝飾セクターの緩やかな需要増加が自動車触媒セクターの小幅な需要減少を相殺したが、ガラスセクターと石油セクターではいずれも需要が約 50％減少した。生産施設が新設されなかったことで需要の減少に拍車がかかったが、施設の閉鎖が増えたことも正味需要の足を引っ張る要因となった。また、小口投資需要については、最大市場である日本の需要が円安による国内プラチナ価格の上昇によって急減したため、全体では 40％を上回る落ち込みとなった。

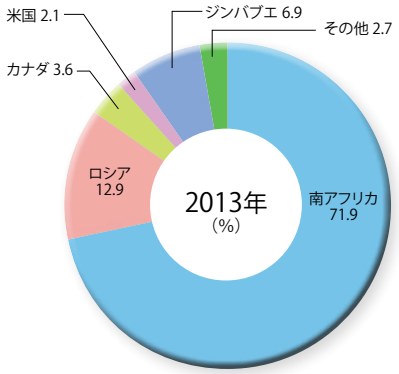
工業用在庫については、約 35 万オンス（10.9 トン）増加したと推定される。正確な数値を巡っては極めて不透明であることがすでにわかっているが、当社の調査が示唆するところによると、南アフリカのプラチナ採掘産業のストライキが拡大するとの懸念が高まり、これが一因となって工業用ユーザーは 2013 年に在庫の積み増しに向けて態勢を整えていた。さらに、2013 年 4 月に発行されたアブサ（Absa）の NewPlat ETF がプラチ

◆プラチナの地域別供給（鉱山生産量）

単位：トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
南アフリカ	145.4	142.1	147.1	147.1	130.2	132.9
ロシア	25.8	24.7	24.4	25.4	25.0	23.8
カナダ	7.1	5.3	4.0	8.4	6.8	6.7
米　国	3.6	3.8	3.5	3.7	3.7	3.8
ジンバブエ	5.6	7.1	8.9	10.6	10.4	12.7
その他	4.0	4.0	3.9	3.6	4.3	4.9
鉱山生産量合計	**191.5**	**187.1**	**191.7**	**198.9**	**180.6**	**184.8**

出所：GFMS、Thomson Reuters



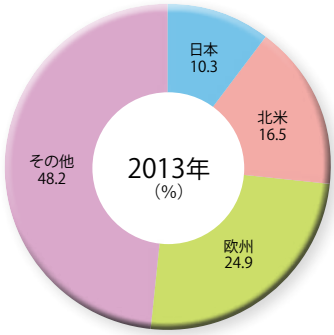
プラチナの地域別供給（鉱山生産量）

◆プラチナの地域別需要

単位：トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
日　本	42.4	27.1	30.4	31.9	31.2	22.0
北　米	37.9	30.6	30.4	33.3	35.1	35.2
欧　州	75.0	56.1	61.9	64.3	58.1	53.0
その他	76.1	83.9	90.5	93.3	99.0	102.6
合　計	**231.7**	**197.8**	**213.5**	**222.7**	**223.4**	**212.8**

出所：GFMS、Thomson Reuters



プラチナの地域別需要

※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
（コメントは、GFMS PLAYINUM ＆ PALLADIUM SURVEY 2014 日本語ダイジェスト版より抜粋）

ナを大量に購入したことも相場の支援材料となり、下半期にはボックス圏相場が維持された。実際、このETFは発行に先駆けて約40万オンスのプラチナを購入しており、プラチナのこうした大量購入が少なくとも一時的な要因となり、年初からの数ヵ月間の相場下落には歯止めがかかっていた。

2013年には、マクロ経済要因と金価格もプラチナ価格とパラジウム価格に影響を与えた。ただし、時期はそれぞれに異なり、影響の程度もプラチナ価格の方が大きかった。特に、第2四半期には、量的緩和が予想よりも早い時期に終了するとの懸念を受けて、金価格が急落し、プラチナ価格とパラジウム価格もこれに伴って下落した。また、4月終盤には、プラチナ価格が再び金価格を上回り、宝飾需要に影響を及ぼした。

プラチナとは対照的に、パラジウム市場は、南アフリカのストライキとロシアからの供給が懸念される以前から大幅な供給不足となっていた。実際、昨年の供給量は2%増で、史上2番目の高水準となったことから、供給不足の原因は供給サイドではなく、15年間にわたる当社データの中で最高となった需要にあった。

年間平均価格が前年の水準を上回ったにもかかわらず、需要はこのような記録的水準を達成。牽引役となったのは、堅調な水準を維持した自動車触媒需要であった。

実際パラジウムの利用が選好される市場が引き続き成長し、プラチナが利用されていた市場でもパラジウムへのシフトが進んでおり、2013年の自動車触媒用パラジウム需要はわずか4年前の水準を56%上回った。他方、宝飾需要は10年ぶりの最低水準まで落ち込み、エレクトロニクス需要は原料の節約とパソコンの売上げ減少によって8%減少したが、自動車用需要の増加はこうした落ち込みを補って余りあるものであった。

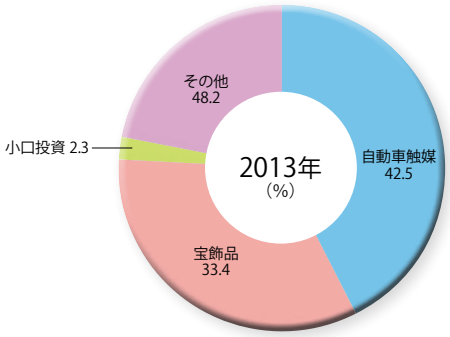
最後に、地上在庫の変動は以前よりも小幅にとどまった。というのも、ロシアの販売量が2003年以来の最低水準まで減少したためである。2013年のパラジウムETFの現物保有量は正味にするとほぼ変わらず、ETFのパラジウム保有量が増加した2012年や2014年の年初来数ヵ月間とは対照的であった。

◆プラチナの用途別需要

単位：トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
自動車触媒	108.9	77.8	91.3	95.4	91.7	90.6
宝飾品	51.2	72.0	59.9	64.9	70.5	71.1
小口投資	14.1	9.7	3.0	9.7	8.8	5.0
その他工業用	57.3	38.1	59.3	52.9	52.3	46.2
合　計	**231.7**	**197.8**	**213.5**	**222.7**	**223.4**	**212.8**

出所：GFMS、Thomson Reuters



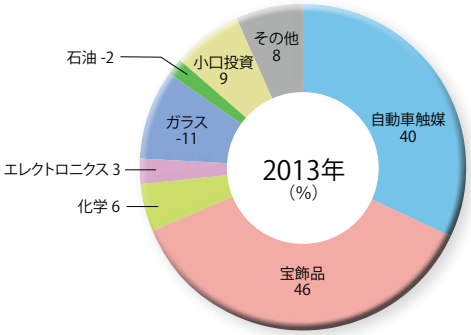
プラチナの用途別需要

◆日本の用途別プラチナ需要

単位：トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
自動車触媒	16.1	9.6	11.4	9.4	10.0	8.9
宝飾品	7.7	8.4	8.1	8.8	10.0	10.2
化　学	1.4	0.9	1.8	1.2	1.1	1.4
エレクトロニクス	1.4	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7
ガラス	3.5	1.0	4.4	3.4	2.6	-2.4
石　油	0.8	0.3	0.7	0.3	0.3	-0.4
小口投資	9.9	4.4	1.2	6.4	4.6	1.9
その他	1.6	1.3	1.6	1.4	1.8	1.7
合　計	**42.4**	**27.1**	**30.4**	**31.9**	**31.2**	**22.0**

出所：GFMS、Thomson Reuters



日本の用途別プラチナ需要

一般社団法人

日本金地金流通協会・沿革と活動

協会の設立と目的ならびに会員構成

昭和 54 年 12 月、金地金の健全な取引と正しい知識の普及をはかるために発足した当協会は、皆様のご支援のもとに、34 年を経過しようとしています。この間、広報、調査、教育等の活動を中心に、所期の目的を果たすべく努力を傾注し、これにより世界の金・プラチナ地金流通機構の一環として社会の信頼と世界的な相互関係を確保することが達成し得たと申せましょう。

当協会は、現在（平成 25 年 9 月）下記の構成で結束を固め、日本の金・プラチナ市場のいっそうの発展に寄与していく所存です。

正会員	25 社	
特別会員	2 社	
登録店	174 社	
賛助会員	27 社	合計 228 社

協会の沿革と日本の金市場

現在の「一般社団法人　日本金地金流通協会」の沿革は、昭和 22 年 4 月に結成され、昭和 28 年 7 月に発展的に解散された「貴金属協議会」に端を発しております。

昭和 28 年 8 月に政府の金政策の転換により金管理法の一部が改正され、国内新産金の一部（後に全部）の民間放出が認められることになり、前述の貴金属協議会は発展的に解散となり、貴金属地金商 14 社、1 協同組合が新たに「貴金属地金協会」を結成しました。

昭和 48 年 4 月、金の輸入自由化とともにデパート等で金の販売がスタート。昭和 53 年、輸出の自由化も実施され、わが国では金の取引が完全に自由化されました。年々急増するわが国の金需要に関連して、金地金に関する知識や取引形態についての理解の不足などから、無秩序に出現した私設の金市場による一般消費者の被害も多発し、社会的な問題となってきました。

このような背景の中で、金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及を目的として、貴金属地金協会会員が中心となり、昭和 54 年 12 月 28 日、通商産業省（現・経済産業省）から社団法人 日本金地金流通協会の設立が許可され、昭和 55 年 1 月より活動を開始しました。その後、平成 25 年 4 月 1 日付けで一般社団法人へ移行し現在に至っております。

以降、金やプラチナの正しい取引についての啓蒙活動を積極的に展開する一方、講演会の開催、会員のための研修会開催、悪質な取引に関する注意喚起など、幅広く活動を行っております。また、平成 12 年 4 月からインターネット上にホームページを開設し、会員会社の紹介を行うとともに、一般消費者に対して金地金等の貴金属に関する各種の情報提供を行っております。

協会役員の紹介

会長	山口 純	株式会社 徳力本店	代表取締役社長
副会長	田苗 明	田中貴金属工業株式会社	代表取締役社長
副会長	片桐 俊一	片桐貴金属工業株式会社	代表取締役社長
専務理事	須江 米夫	一般社団法人 日本金地金流通協会	
理事	古宮 誠一	石福金属興業株式会社	代表取締役社長
理事	山本 隆彦	山本貴金属地金株式会社	代表取締役社長
理事	五木田 春夫	小島化学薬品株式会社	代表取締役社長
理事	井嶋 隆之	井嶋金銀工業株式会社	代表取締役社長
理事	相田 英則	相田化学工業株式会社	代表取締役社長
理事	堤田 龍治	堤田貴金属工業株式会社	代表取締役専務
監事	松村 正裕	株式会社 松村金銀店	代表取締役社長
監事	乾 保太郎	乾庄貴金属化工株式会社	代表取締役社長

正会員

当協会正会員25社が販売する金地金には、それぞれの《刻印》が押されており、
信頼のシンボルになっています。

株式会社 アサカ理研
〒963-0725 福島県郡山市田村町金屋字マセロ47
TEL.024-944-4744　FAX.024-944-4766
www.asaka.co.jp/

田中貴金属工業株式会社
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3
東京ビルディング22F
TEL.03-6311-5511　FAX.03-6311-5571
gold.tanaka.co.jp/

相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-15-13
TEL.042-368-6311　FAX.042-368-6316
www.aida-j.jp/

株式会社 徳力本店
〒101-8548 東京都千代田区鍛冶町2-9-12
TEL.03-3252-0171　FAX.03-3258-1234
www.tokuriki-kanda.co.jp/

アサヒプリテック株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー11F
TEL.03-6270-1826　FAX.03-6270-1825
www.asahipretec.com/

中溝貴金属工業株式会社
〒141-0031東京都品川区西五反田3-16-7
TEL.03-3491-4141　FAX.03-3490-4550

石福金属興業株式会社
〒101-8654 東京都千代田区内神田3-20-7
TEL.03-3252-3131　FAX.03-3254-6285
www.ishifuku.co.jp/

松田産業株式会社
〒163-0558 東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル6F
TEL.03-3345-0811　FAX.03-3345-8605
www.matsuda-sangyo.co.jp/

井島貴金属精錬株式会社
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-50-10
TEL.03-3803-1705　FAX.03-3803-2492
www.ijimakk.com/

株式会社 松村金銀店
〒124-0013 東京都葛飾区東立石3-8-4
TEL.03-3694-0173　FAX.03-3691-4601
www.kingin.co.jp/

井嶋金銀工業株式会社
〒116-8543 東京都荒川区東日暮里5-47-10
TEL.03-3803-4341　FAX.03-3802-4775
www.ijimakk.co.jp/

水野ハンディー・ハーマン株式会社
〒110-0014 東京都台東区北上野2-11-12
TEL.03-3844-6161　FAX.03-3844-6150
www.mhh.co.jp/

片桐貴金属工業株式会社
〒114-0012 東京都北区田端新町3-11-2
TEL.03-3894-4111　FAX.03-3894-4178
www.katagiri-k-k.co.jp/

横浜金属株式会社
〒252-0132 相模原市緑区橋本台3-5-2
TEL.042-773-4411　FAX.042-773-4775
www.yk-metal.com/

小島化学薬品株式会社
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原337-26
TEL.04-2953-9231　FAX.04-2953-9237
www.kojima-c.co.jp/

株式会社 森銀
〒400-0834 山梨県甲府市落合町817
TEL.055-241-6611　FAX.055-241-7988
www.morigin.co.jp/

竹内貴金属工業株式会社
〒108-0071 東京都港区白金台1-2-10
藤和白金台コープB101
TEL.03-3447-0321　FAX.03-3447-0340
www.takeuchi-kk.com

安藤貴金属精錬株式会社
〒453-0014 名古屋市中村区則武1-1-24
TEL.052-452-1678　FAX.052-451-7988
www.ando-precious.com/

※ホームページURL冒頭の「http://」は省略しております。

正会員

株式会社 坂金銀店
〒451-0044 名古屋市西区菊井1-24-18
TEL.052-571-3555　FAX.052-571-3557

山本貴金属地金株式会社
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町3-7
TEL.06-6761-4739　FAX.06-6761-4743
www.yamakin-gold.co.jp/

大浦貴金属工業株式会社
〒630-8042 奈良県奈良市西ノ京町284
TEL.0742-33-8545　FAX.0742-34-7884
www.ohura.co.jp

堤田貴金属工業株式会社
〒733-0012 広島市西区中広町2-14-23
TEL.082-293-2233　FAX.082-295-0643
www.gold-tsutsumida.co.jp/

乾庄貴金属化工株式会社
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-10-8
TEL.06-6643-1234　FAX.06-6643-4598
www.prcimtl.co.jp/

株式会社 松井商会
〒874-0942 大分県別府市千代町4-2
TEL.0977-22-4045　FAX.0977-23-3226
matsuishokai.net/

株式会社 永井貴金属工業所
〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町18-15
TEL.06-6762-7185　FAX.06-6761-4361
www.oct.zaq.ne.jp/nagai-ki/nagaigold.html

特別会員

ワールドゴールドカウンシル
〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル東館19 F

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー17 F

※ホームページURL冒頭の「http://」は省略しております。

貴金属の需給リポート
『GFMS GOLD SURVEY 2014』日本語版……gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html
『GFMS PLATINUM ＆ PALLADIUM SURVEY 2014』日本語版……gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html

貴金属情報
ワールド ゴールド カウンシル（英文）……www.gold.org/
プラチナ・ギルド・インターナショナル 株式会社……www.preciousplatinum.jp/
THOMSON REUTERS（英文）……tmsnrt.rs/1qKCvIi （＊）
KITCO（英文：価格情報をリアルタイムでチャート表示）……www.kitco.com/
The Bullion Desk（英文：英語圏のニュース、リポート）……www.bulliondesk.com/

（＊）THOMSON REUTERSの貴金属情報ページへのリンク先は、短縮URLです。大文字・小文字を正確に入力してください。

登録店

■北海道

風早金銀店
〒060-0062 札幌市中央区南2条西7丁目
TEL.011-231-2213 FAX.011-231-7457

(株)宝石の玉屋
〒060-0002 札幌市中央区北2条西3-1
敷島ビル1F
TEL.011-231-4517 FAX.011-222-1892

(株)東京タイム堂時計店
〒070-0039 旭川市9条通2丁目
パークハイツ3F-7
TEL.0166-22-4298 FAX.0166-22-4298

(株)大作時計店
〒093-0014 網走市南4条西1-5
TEL.0152-44-1122 FAX.0152-44-1136

(有)道時計店
〒080-0013 帯広市西3条南9-20
TEL.0155-22-5473 FAX.0155-22-5463

時計・宝石いしおか
〒080-0012 帯広市西2条南8丁目
藤丸デパート6F
TEL.0155-24-0936 FAX.0155-23-3193

ヘリテージ・キムラ
〒053-0022 苫小牧市表町3-2-11
TEL.0144-34-6511 FAX.0144-36-4877

(株)ワ渡辺時計店
〒040-0063 函館市若松町17-9
TEL.0138-23-4111 FAX.0138-26-2818

(株)ヤマムラ時計宝飾店
〒040-0011 函館市本町6-14
TEL.0138-51-0617 FAX.0138-51-0689

(株)日昇堂
〒050-0074 室蘭市中島町1-18-4
TEL.0143-44-4476 FAX.0143-44-6321

(株)藤屋時計店
〒050-0085 室蘭市輪西町1-19-5
TEL.0143-44-5551 FAX.0143-43-8035

■青森県

(株)丸啓
〒030-0801 青森市新町2-5-6
TEL.0177-23-2611 FAX.0177-23-2622

(株)マエバラ
〒031-0031 八戸市番町30
TEL.0178-45-6677 FAX.0178-45-6728

(株)高橋時計店
〒035-0035 むつ市本町3-9
TEL.0175-22-3010 FAX.0175-22-3979

■秋田県

(株)竹谷本店
〒010-0001 秋田市中通2-4-3
TEL.018-835-1331 FAX.018-832-1906

■宮城県

(株)大井宝石店 一番町店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-10-21
TEL.022-261-0101 FAX.022-212-1465

GINZA TANAKA 仙台店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-5-7
TEL.022-265-4130 FAX.022-265-4131

(株)三原本店
〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-2-23
TEL.022-224-0010 FAX.022-224-0536

(株)ナガハシ
〒989-0275 白石市字本町105
TEL.0224-25-1188 FAX.0224-25-1189

(株)天賞堂
〒989-6163 大崎市古川台町1-7
TEL.0229-23-5151 FAX.0229-23-7842

■福島県

(株)三瓶貴金属店
〒960-8036 福島市新町2-30
TEL.024-522-8451 FAX.024-522-5538

(株)ネモト
〒970-8026 いわき市平3-24
TEL.0246-25-5566 FAX.0246-23-8089

ワタナベ
〒970-8026 いわき市平2-33-1
TEL.0246-22-2131 FAX.0246-22-2132

(株)増子時計店
〒963-8002 郡山市駅前2-6-19
TEL.024-922-3456 FAX.024-932-2566

(有)サトウ時計店
〒965-0878 会津若松市中町1-1
TEL.0242-27-1290 FAX.0242-27-4120

(株)石沢
〒964-0906 二本松市若宮2-154-15
TEL.0243-23-0431 FAX.0243-23-0453

■岩手県

(株)道又時計店
〒020-0022 盛岡市大通り3-1-18
TEL.019-651-1234 FAX.019-651-1238

(有)松村時計店
〒024-0094 北上市本通り2-3-43
TEL.0197-65-3201 FAX.0197-65-2085

(株)おくやま
〒025-0078 花巻市吹張町12-11
TEL.0198-22-3333 FAX.0198-22-6770

■山形県

(株)平田金銀店
〒990-0039 山形市香澄町3-1-1
TEL.023-622-5540 FAX.023-641-3214

(株)宝石の柿崎
〒996-0023 新庄市沖の町5-13
TEL.0233-22-3115 FAX.0233-22-2542

(有)サクラ堂
〒996-0023 新庄市沖の町1-5 ヤマキビル1F
TEL.0233-22-5888 FAX.0233-22-1327

(有)佐藤正栄堂
〒997-0034 鶴岡市本町2-2-10
TEL.0235-22-0554 FAX.0235-24-9350

(株)新光堂本店
〒994-0049 天童市南町1-1-15
TEL.023-654-5626 FAX.023-654-5621

■茨城県

(株)ジュエリーネモト
〒310-0852 水戸市笠原町300-1
TEL.029-305-1811 FAX.029-305-1671

(株)イシカワ
〒310-0021 水戸市南町3-4-8
TEL.029-225-3939 FAX.029-225-3936

(有)中村時計店
〒306-0033 古河市中央町1-10-43
TEL.0280-22-0654 FAX.0280-22-0656

■栃木県

(有)今泉貴金属
〒320-0023 宇都宮市仲町1-13
TEL.028-622-3573 FAX.028-624-5010

(有)トコヨ時計店
〒320-0802 宇都宮市江野町5-10
TEL.028-634-9057 FAX.028-634-9057

(株)博泉堂
〒320-0026 宇都宮市馬場通り2-3-8
TEL.028-635-1811 FAX.028-633-3366

(株)フタバ堂
〒326-0814 足利市通2-2618
TEL.0284-22-0234 FAX.0284-20-1025

(株)ジュエルエレガンス
〒323-0829 小山市東城南1-31-7
TEL.0285-31-4866 FAX.0285-31-4867

■群馬県

ラフィーネ平田
〒371-0831 前橋市小相木町545-1
TEL.027-252-8828 FAX.027-251-0862

登録店

パルク岡村
〒372-0047 伊勢崎市本町3-23
TEL.0270-25-0131 FAX.0270-25-3211

Hearty Heart イトイ伊勢崎店
〒372-0801 伊勢崎市宮子町3423-24
TEL.0270-50-0360 FAX.0270-50-0361

■埼玉県

(株)ツツミ
〒335-0004 蕨市中央4-24-26
TEL.048-431-5111 FAX.048-444-2900

■千葉県

(株)勉強堂本店
〒260-0013 千葉市中央区中央3-15-9
TEL.043-225-1131 FAX.043-225-8292

実香宝石店
〒294-0047 館山市八幡530-1
TEL.0470-22-0665 FAX.0470-24-1508

■東京都

中真堂(株)
〒133-0056 江戸川区南小岩7-24-15
小岩ステーションセンター内
TEL.03-3672-0424 FAX.03-3672-0560

(株)フジタ
〒144-0052 大田区蒲田5-8-8
TEL.03-3731-2980 FAX.03-3736-0821

(株)山口商店
〒115-0055 北区赤羽西4-1-17
TEL.03-3900-3655 FAX.03-3906-4389

(株)明光堂
〒135-0047 江東区富岡1-9-9
TEL.03-3641-1865 FAX.03-3641-2006

GINZA TANAKA 新宿店
〒160-0022 新宿区新宿3-33-10
TEL.03-3355-4143 FAX.03-3355-5321

石福ジュエリーパーツ(株)
〒110-0005 台東区上野5-22-6
御徒町みきビル
TEL.03-3832-5241 FAX.03-3836-2063

(株)大淵銀器
〒110-0015 台東区東上野3-1-13
TEL.03-3847-7711 FAX.03-3843-1360

(株)アイズ・インターナショナル
〒110-0005 台東区上野3-12-6
TEL.03-3834-5606 FAX.03-3836-4169

(株)コモキン本店
〒110-0005 台東区上野1-10-10
うさぎやビル3F
TEL.03-3836-0471 FAX.03-3836-1790

松本徽章工業(株)
〒111-0041 台東区元浅草1-12-2
TEL.03-3842-6161 FAX.03-3845-6267

(株)森銀器製作所
〒110-0015 台東区東上野2-5-12
TEL.03-3833-8821 FAX.03-3832-3762

(株)浅野商店
〒104-0061 中央区銀座8-8-5 太陽ビル10F
TEL.03-3573-1003 FAX.03-3573-2002

GINZA TANAKA 銀座本店
〒104-0061 中央区銀座1-7-7
TEL.0120-76-4143 FAX.03-3564-2658

オリエンタルダイヤモンド 丸の内店
〒100-0006 千代田区有楽町1-12-1
新有楽町ビル1F
TEL.03-3287-2801 FAX.03-3287-2802

(株)一誠堂
〒152-0035 目黒区自由が丘1-29-7
TEL.03-3717-6660 FAX.03-3718-8765

■神奈川県

松本徽章(株)
〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町5-129
TEL.045-252-5175 FAX.045-261-6446

(株)アート宝飾
〒231-0014 横浜市中区常盤町4-45
TEL.045-662-3111 FAX.045-681-6363

GINZA TANAKA 横浜元町店
〒231-0861 横浜市中区元町1-29-3
TEL.045-663-3151 FAX.045-663-3157

佐野商事(株)
〒257-0031 秦野市曽屋1175
TEL.0463-82-3500 FAX.0463-82-3501

(株)銀美堂
〒251-0047 藤沢市辻堂1-3-2
TEL.0466-36-5131 FAX.0466-36-5557

(株)和田屋
〒251-0052 藤沢市藤沢969-1-101
TEL.0466-26-2306 FAX.0466-26-2307

(株)ささき
〒238-0031 横須賀市衣笠栄町1-8
TEL.0468-54-0222 FAX.0468-52-8181

■山梨県

井島貴金属精錬(株)甲府営業所
〒400-0861 甲府市城東1-8-11
ルミエール愛宕山1F
TEL.0552-35-6963 FAX.0552-32-8527

(株)オプト ナカムラ
〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津2448
TEL.0555-72-1408 FAX.0555-73-3666

■長野県

ジュエリー東京 長野店
〒380-0826 長野市北石堂町1381
TEL.026-226-5556 FAX.026-226-7770

(有)ツノダ
〒395-0031 飯田市銀座4-1
TEL.0265-23-1321 FAX.0265-23-1322

(株)マルトキ
〒396-0025 伊那市荒井22
TEL.0265-78-2266 FAX.0265-73-6977

(株)三村貴金属店
〒392-0004 諏訪市諏訪1-5-20
TEL.0266-52-0625 FAX.0266-52-0630

(株)ヤマザキ
〒392-0004 諏訪市諏訪1-3-11
TEL.0266-52-5200 FAX.0266-58-5814

■新潟県

(株)宝石のダイヤ
〒951-8063 新潟市古町通八番町1508
TEL.025-228-5833 FAX.025-225-4171

(株)早津
〒943-0832 上越市本町4-1-8
TEL.025-523-2203 FAX.025-524-0366

(株)ミヤコヤ
〒940-0062 長岡市大手通1丁目3-3
TEL.0258-36-2020 FAX.0258-32-1616

■静岡県

(株)安心堂
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-9
TEL.054-254-0111 FAX.054-209-0982

(株)タカラ堂
〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-4-4
TEL.054-254-0141 FAX.054-251-2660

オザワ宝石(株)
〒422-8042 静岡市駿河区石田3-6-13
TEL.054-283-2105 FAX.054-285-9275

(株)三青貴宝
〒410-0037 沼津市三枚橋町5-21 三青ビル
TEL.055-963-2779 FAX.055-951-0263

河合宝石店
〒430-0928 浜松市板屋町102-14
TEL.053-453-9177 FAX.053-454-1251

(株)いとう時計店
〒421-0523 牧之原市相良町波津709
TEL.0548-52-1191 FAX.0548-52-2688

■愛知県

(株)池田商店
〒460-0008 名古屋市中区栄2-5-13
TEL.052-221-7411 FAX.052-201-6900

石福金属興業(株)名古屋営業所
〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-22-10
TEL.052-563-1201 FAX.052-563-1219

(株)サンメナード
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-24
ノノガワビル2F
TEL.052-962-4755 FAX.052-951-4705

(株)水渓
〒460-0008 名古屋市中区栄3-27-25
TEL.052-261-2641 FAX.052-261-7093

GINZA TANAKA 名古屋店
〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-70
TEL.052-262-0277 FAX.052-263-1580

(株)柏圭
〒460-0008 名古屋市中区栄3-9-17
TEL.052-261-7781 FAX.052-261-7713

(株)エンジェリーいのこ
〒491-0851 一宮市大江3-1-21
TEL.0586-71-7474 FAX.0586-71-7477

(株)伊藤宝石店
〒448-0844 刈谷市広小路4-209
TEL.0566-21-3124 FAX.0566-21-8205

(株)ニイミ時計店
〒475-0853 半田市南末広町1-1
TEL.0569-22-4771 FAX.0569-22-4772

ジュエリーサトウ
〒496-0071 津島市新開町1-6 ヨシヅヤSC内1F
TEL.0567-23-2233 FAX.0567-23-7351

■岐阜県

(株)岩田時計舗
〒500-8876 岐阜市日ノ出町1-16
TEL.058-265-7717 FAX.058-266-0160

(株)千賀
〒500-8833 岐阜市神田町8-15
TEL.058-265-5566 FAX.058-263-5468

■三重県

(株)キタオカ
〒510-0086 四日市市諏訪栄町14-8
TEL.059-351-2552 FAX.059-354-1954

(有)日宝堂
〒516-0026 伊勢市宇治浦田3-3-33
TEL.0596-24-2180 FAX.0596-28-8100

■富山県

(株)ソシエハシヅメ
〒930-0083 富山市総曲輪3-5-10
TEL.076-425-3838 FAX.076-422-3033

エルサカエ富山総本店
〒930-0818 富山市奥田町3-14
TEL.076-431-3200 FAX.076-442-1177

(株)大坪
〒933-0026 高岡市片原町155
TEL.0766-25-4255 FAX.0766-26-6165

■石川県

作田金銀製箔(株)
〒920-0831 金沢市東山1-3-27
TEL.076-251-6777 FAX.076-251-6677

(株)アルテシマダ
〒920-0981 金沢市片町2-2-15 北国ビル
TEL.076-260-0030 FAX.076-223-0771

高岡製箔(株)
〒920-0843 金沢市森山1-30-4
TEL.076-252-3601 FAX.076-252-7765

(株)今井金箔
〒920-0968 金沢市幸町7-3
TEL.076-221-1990 FAX.076-223-1659

(株)森立志堂
〒923-0921 小松市土居原町189-2
TEL.0761-24-1388 FAX.0761-24-1384

■福井県

(株)福井ゴールドセンター奥田
〒910-0004 福井市宝永4-19-3
TEL.0776-22-3506 FAX.0776-22-3546

(株)藤井時計店
〒910-0006 福井市中央1-5-1
TEL.0776-22-3375 FAX.0776-22-3349

(株)宝石時計の武内
〒910-0006 福井市中央1-9-28
TEL.0776-30-7711 FAX.0776-30-7710

(株)川上
〒914-0054 敦賀市白銀町5-27
TEL.0770-22-0665 FAX.0770-22-6060

■京都府

(株)ゴールドスリー サイトウ
〒604-8081京都市中京区寺町通三条上ル
天性寺前町532 北原ビルB1
TEL.075-241-2468 FAX.075-254-7117

星辰屋時計店
〒623-0021 綾部市本町2-2
TEL.0773-42-2154 FAX.0773-42-2154

(有)カワモト
〒621-0818 亀岡市京町28-1
TEL.077-122-1682 FAX.077-122-2788

(株)シオミ
〒625-0036 舞鶴市字浜266
TEL.0773-62-0370 FAX.0773-64-3806

■滋賀県

(有)川原崎
〒522-0088 彦根市銀座町4-24
TEL.0749-22-0838 FAX.0749-22-7383

■奈良県

(株)エレガンスヨシダ
〒636-0003 北葛城郡王寺町久度2-13-5
TEL.0745-32-1151 FAX.0745-72-1770

■大阪府

石福金属興業(株)大阪営業所
〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-36
TEL.06-6532-1351 FAX.06-6533-6064

マルフク商会(貴金属部)
〒530-0013 大阪市北区茶屋町6-2 水野ビル
TEL.06-6373-0298 FAX.06-6372-8622

オリエンタルダイヤモンド梅田店
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4-100
大阪駅前第4ビル1F
TEL.06-6344-1821 FAX.06-6341-5708

GINZA TANAKA 心斎橋店
〒520-0085 大阪市中央区心斎橋筋1-4-21
TEL.06-6244-4143 FAX.06-6253-4110

(株)徳力本店 大阪営業所
〒542-0081大阪市中央区南船場2-11-20
GATO三休橋ビル1階
TEL.06-6252-7811 FAX.06-6252-7815

(株)新光貴
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-7-21
TEL.06-6261-0210 FAX.06-6261-0220

川端金属鉱業(株)
〒577-0065 東大阪市高井田中2-1-29
TEL.06-6783-5033 FAX.06-6783-4598

■兵庫県

(株)タナカ
〒670-0922 姫路市二階町51
TEL.079-225-1212 FAX.079-225-1215

木谷貴金属(株)
〒650-0022 神戸市中央区元町通1-5-10
TEL.078-332-5757 FAX.078-391-3664

(株)元町時計店
〒650-0022 神戸市中央区元町通1-8-5
TEL.078-331-1712 FAX.078-331-1860

K.G.B.神戸ゴールドバンク
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9 1R-07
神戸ファッションマート1F
TEL.078-891-8711 FAX.078-891-8733

(株)ミヤコ
〒675-0065 加古川市加古川町篠原町13-4
TEL.079-422-2232 FAX.079-425-2243

■和歌山県

(株)セキネ ガーデンパーク店
〒640-8421 和歌山市松江向鵜の島1469-1
ガーデンパーク2F
TEL.073-455-5700 FAX.073-455-5770

■岡山県

(株)田中時計店
〒700-0822 岡山市北区表町2-2-81
TEL.086-225-2361 FAX.086-232-4448

(株)トミヤコーポレーション
〒700-0822 岡山市北区表町2-2-83
TEL.086-212-1038 FAX.086-235-6565

菅田(株)
〒708-0841 津山市川崎1902-3
TEL.0868-25-1231 FAX.0868-23-1232

(株)不二屋宝飾店
〒708-8520 津山市新魚町17 アルネ津山1F
TEL.0868-22-3914 FAX.0868-22-3918

■鳥取県

(株)中井脩
〒680-0831 鳥取市栄町623
TEL.0857-23-5221 FAX.0857-22-8338

登録店

(株)米子中井脩
〒683-0804 米子市米原7-1-14
TEL.0859-33-5566 FAX.0859-22-2219

■島根県

(有)創美堂
〒690-0843 松江市末次本町29
TEL.0852-21-4100 FAX.0852-27-4100

(株)アツタ
〒693-0001 出雲市今市町1395
TEL.0853-22-5530 FAX.0853-22-5531

(株)ニッタ
〒697-0037 浜田市新町11-3
TEL.0855-23-1141 FAX.0855-23-1145

■広島県

浅田貴金属
〒736-0081 広島市安芸区船越4-6-12
TEL.082-823-2931 FAX.082-823-2931

(株)ナカオカ
〒730-0033 広島市中区堀川町5-10
TEL.082-246-7788 FAX.082-246-4300

(有)松林貴金属商会
〒730-0003 広島市中区白島九軒町3-10
TEL.082-222-6361 FAX.082-222-6361

(株)麻生
〒720-0043 福山市船町1-1
TEL.084-926-2538 FAX.084-931-2911

■山口県

(株)山本時計店
〒753-0043 山口市宮島町8-4
TEL.083-924-3210 FAX.083-924-3218

(株)ジュエルセブン
〒750-0025 下関市竹崎町4-4-8
TEL.083-235-0123 FAX.083-261-1377

■徳島県

(株)池田時計店
〒770-0904 徳島市新町橋1-11
TEL.088-622-2770 FAX.088-623-4194

(株)ハラダ
〒770-0912 徳島市東新町1-21
TEL.088-622-6872 FAX.088-655-1236

(株)ヨシイ時計店
〒772-0003 鳴門市撫養町小桑島字前浜23-9
TEL.088-685-3589 FAX.088-685-8866

(株)ジュエリー ピコ
〒771-0212 板野郡松茂町中喜来字前原東5-9-2
TEL.088-699-3339 FAX.088-699-6669

■香川県

(株)柿屋
〒760-0040 高松市片原町9-7
TEL.087-821-5440 FAX.087-821-5447

(有)はなや
〒760-0029 高松市丸亀町6-6
TEL.087-822-0777 FAX.087-822-0778

■高知県

(株)大西時計店
〒780-0841 高知市帯屋町1-13-20
TEL.088-823-0024 FAX.088-823-0025

■愛媛県

桜産業(株)
〒790-0012 松山市湊町3-8-5
TEL.089-941-7111 FAX.089-941-7115

(有)ササキ時計店
〒794-0015 今治市常盤町2-6-1
TEL.0898-32-2126 FAX.0898-32-2124

(株)木藤時計店
〒798-0040 宇和島市中央町1-5-7
TEL.0895-25-2255 FAX.0895-24-5109

■福岡県

(株)ジャパンゴールド
〒810-0041 福岡市中央区大名1-14-45
Qiz TENJINビル3F
TEL.092-771-8200 FAX.092-761-8361

GINZA TANAKA 福岡天神店
〒810-0001 福岡市中央区天神2-7-12
TEL.092-712-4143 FAX.092-712-4166

(株)吉田時計店
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1-1
TEL.092-431-1425 FAX.092-431-1425

宝石のエトウ飯塚店
〒820-0042 飯塚市本町11-26
TEL.0948-22-0480 FAX.0948-23-2779

石福金属興業(株)九州営業所
〒802-0002 北九州市小倉北区京町3-13-13
TEL.093-531-9331 FAX.093-551-7548

(株)小林時計店
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-6
TEL.093-521-0013 FAX.093-522-7735

(株)ナカノ
〒802-0006 北九州市小倉北区魚町2-3-22
TEL.093-521-0453 FAX.093-521-9575

ゴールド アンド アサヒ
〒830-0032 久留米市東町34-67
TEL.0942-37-3802 FAX.0942-37-3803

■長崎県

(有)和光
〒850-0901 長崎市本石灰町1-7
TEL.095-821-6363 FAX.095-827-7431

(資)山之内時計眼鏡店
〒855-0804 島原市万町500
TEL.0957-62-3003 FAX.0957-64-3003

ゴールドジュエリー タナカ
〒857-0875 佐世保市下京町4-21
TEL.0956-23-8084 FAX.0956-23-8087

■佐賀県

(株)ニシムラ
〒840-0824 佐賀市呉服元町2-20
TEL.0952-22-6781 FAX.0952-24-5773

■熊本県

ジュエラーキヨタ本店
〒860-0845 熊本市中央区上通町7-3
TEL.096-324-1010 FAX.096-324-6501

(有)恒松時計店
〒868-0501 球磨郡多良木町大字多良木555-2
TEL.0966-42-2382 FAX.0966-42-6567

■宮崎県

日髙本店
〒880-0001 宮崎市橘通西3-10-24
TEL.0985-26-1101 FAX.0985-26-1024

■鹿児島県

(有)共立時計店
〒891-0141 鹿児島市谷山中央2-4185
TEL.099-268-3061 FAX.099-260-1444

■沖縄県

(株)鉢嶺本店
〒900-0006 那覇市おもろまち4-3-8
TEL.098-860-6777 FAX.098-860-3775

(株)山城時計店
〒900-0015 那覇市久茂地3-3-2
TEL.098-867-3093 FAX.098-861-7074

賛助会員

■鉱山

住友金属鉱山（株）
〒105-8716 東京都港区新橋5-11-3
新橋住友ビル3F
TEL.03-3436-7841

中外鉱業（株）
〒100-6312 東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルヂング 12F
TEL.03-3201-1542

東邦亜鉛（株）
〒103-8437 東京都中央区日本橋本町1-6-1
丸柏ビル
TEL.03-3272-5611

DOWA メタルマイン（株）
〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1
秋葉原UDXビル22F
TEL.03-6847-1204

日鉄鉱業（株）
〒100-8377 東京都千代田区丸の内2-3-2
郵船ビル6Ｆ
TEL.03-3216-5265

日本鉱業協会
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町
3-17-11 榮葉ビル8F
TEL.03-5280-2321

古河メタルリソース（株）
〒100-8370 東京都千代田区丸の内2-2-3
丸の内仲通りビル3F
TEL.03-3212-6840

三菱マテリアル（株）
〒100-8338 東京都千代田区丸の内3-3-1
新東京ビル7F
TEL.03-5252-5371

パンパシフィック・カッパー（株）
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-3
JXビル7F
TEL.03-5299-7463

■商社

住商マテリアル（株）
〒104-0053 東京都中央区晴海1-8-8
晴海トリトンスクエアオフィスタワーW5F
TEL.03-5144-0506

三井物産（株）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1
TEL.03-3285-1111

三菱商事RtMジャパン(株)
〒100-7027 東京都千代田区丸の内2-7-2
JPタワー27F
TEL.03-5221-1770

双日（株）
〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビル24F
TEL.03-6871-2327

■装身具

日本貴金属製鎖工業組合
〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2
オーラム505号室
TEL.03-3836-1704

（一般社）日本ジュエリー協会
〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25
TEL.03-3835-8567

日本貴金属協同組合
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-29-6
TEL.03-3803-5535

中川装身具工業（株）
〒111-0052 東京都台東区柳橋1-29-7
TEL.03-3861-2111

■その他

（株）浅野歯科産業
〒920-0841 石川県金沢市浅野本町1-10-10
TEL.076-251-0115

（株）シラネ
〒460-0012 名古屋市中区千代田2-4-8
TEL.052-261-4636

鈴木貴金属化工（株）
〒332-0001 埼玉県川口市朝日4-21-52
TEL.048-222-3450

ユミコアジャパン（株）
〒107-0061 東京都港区北青山1-2-3
青山ビル5F
TEL.03-5413-9347

（株）東京貴金属地金店
〒110-0005 東京都台東区上野5-21-7
TEL.03-3836-0050

（株）白光
〒730-0036 広島市中区袋町5-13
TEL.082-244-4100

（株）槇島貴金属精錬所
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-32-14
TEL.03-3806-5945

（株）八木橋
〒360-0047 埼玉県熊谷市仲町74
TEL.048-523-1111

（株）吉井商店
〒920-0902 石川県金沢市尾張町1-10-30
TEL.076-221-1678

（株）MARUWA
〒488-0044 愛知県尾張旭市
南本地ヶ原町3-83
TEL.0561-51-0841

GOLD & PLATINUM
2014 No.35

発行日：平成26年9月30日
発行人：山口　純
編集人：須江 米夫

発行：一般社団法人 日本金地金流通協会
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2階
TEL. 03-5207-5371（代表） FAX.03-3254-8663
http://www.jgma.or.jp

本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。

安心・安全な取引は、協会加盟店で

一般社団法人 日本金地金流通協会は、各種の広報活動を通じて
金・プラチナの正しい知識の普及に努めています。
金・プラチナの地金、コイン、ジュエリーなどのお取引やお問い合わせは、
信頼ある当協会会員各社のご利用をお勧めします。

GOLD

一般社団法人 **日本金地金流通協会**
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2階
TEL.03-5207-5371（代表）

WORLD GOLD COUNCIL
ワールド ゴールド カウンシル
〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル 東館19階

PLATINUM
プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー17F